

# 2013

## アニュアルレポート

2013年3月31日終了年度



このPDFには、パソコン画面で読みやすくするため、各ページにナビゲーションボタンやカテゴリタブなどさまざまな機能を設けています。

### ナビゲーションボタン (目次)

- 明治グループについて
- 明治グループの事業戦略
- 明治グループのCSR
- 会社情報

### アイコン

- 前のページへ移動
- 目次へ
- 目次へ移動
- 拡大表示
- 次のページへ移動
- 関連ページへ移動
- 画像を閉じる
- PDF内の文字を検索
- 外部サイトへ移動

### アニュアルレポートのご利用にあたって

明治ホールディングスは、ステークホルダーの皆さまに経営戦略や経営管理施策をご報告するための資料としてアニュアルレポートを発行しています。財務報告やリスク情報に関するより詳しい情報については、金融庁宛てに提出した有価証券報告書にてご報告していますので、併せてご覧ください。

有価証券報告書は当社IRサイトよりご覧いただけます。



明治グループには、長年にわたり培ってきた技術・知見、素材・研究開発力、安全・安心の品質、そしてそれらに携わる人びとのパワーといった、経営資源があります。

加えて、多数の強いブランドや領域で構成される幅広い事業基盤があります。

こうした強みを結集し、中期経営計画「**TAKEOFF14**」の達成と

長期経営指針「明治グループ 2020ビジョン」の実現に向けて、

明治グループは歩みを進めています。

## Contents 明治ホールディングス株式会社 アニュアルレポート 2013

### 将来の見通しに関する記述について

このアニュアルレポートに記載されている計画や戦略、将来の業績見通しなどは、当社がアニュアルレポート作成時点で入手可能な情報から判断したものです。従って、今後の状況によっては、実際の結果が当社の見通しと異なる可能性があることをご承知おきください。なお、記載している情報は、特に示しているものを除き、2013年8月現在のものです。

(注) このアニュアルレポートの内容は、2012年度(2013年3月期)の実績に基づいています。一部、2013年度(2014年3月期)の活動内容も含まれます。

## 経営の基本方針

私たちは、「明日をもっとおいしく」のスローガンのもと、「食と健康」の領域において、あらゆる世代のお客さまの生活充実に貢献するとともに、グローバルな企業グループへと成長・発展すべく全力を尽くし、お客さま、株主さまなどのステークホルダーに向け、企業価値の継続的な向上を図ってまいります。

## 明治グループ理念体系

### グループ理念

私たちの使命は、「おいしさ・楽しさ」の世界を拡げ、「健康・安心」への期待に応えてゆくこと。

私たちの願いは、「お客さまの気持ち」に寄り添い、日々の「生活充実」に貢献すること。

私たち明治グループは、「食と健康」のプロフェッショナルとして、常に一歩先を行く価値を創り続けます。

### 経営姿勢

#### 5つの基本

- 1 「お客さま起点」の発想と行動に徹する。
- 2 「高品質で、安全・安心な商品」を提供する。
- 3 「新たな価値創造」に挑戦し続ける。
- 4 「組織・個人の活力と能力」を高め、伸ばす。
- 5 「透明・健全で、社会から信頼される企業」になる。

### 行動指針

#### meiji way

お客さまの、パートナーの、仲間たちの、「そばになくってはならない存在」であるために

- 1 お客さまと向き合って、お客さまから学ぶ。
- 2 先を見る動きを鍛え、先駆ける技を磨く。
- 3 仕事をおもしろくする、おもしろい仕事を創る。
- 4 課題から逃げない、やりぬく気概と勇気を持つ。
- 5 チームの可能性を信じ、チームの力を活かす。

## 強いブランドで構成され、あらゆる世代の生活充実に貢献する 食品事業



牛乳類

シェア

22.4%

国内 No.1

出典：株式会社インテージSRI（牛乳類市場）  
2012年4月～2013年3月累計メーカーシェア（金額）



ヨーグルト

シェア

42.7%

国内 No.1

出典：当社推定、2012年度



チョコレート

シェア

24.7%

国内 No.1

出典：株式会社インテージSRI（チョコレート市場）  
2012年4月～2013年3月累計メーカーシェア（金額）



カップアイス

シェア

36.8%

国内 No.1

出典：株式会社インテージSRI（カップアイス市場）  
2012年4月～2013年3月累計メーカーシェア（金額）



スポーツ用プロテイン

シェア

46.9%

国内 No.1

出典：当社推定、2012年



うがい薬

シェア

48.3%

国内 No.1

出典：株式会社インテージSDI（うがい薬市場）  
2012年4月～2013年3月累計メーカーシェア（金額）

※ SRI：株式会社インテージが食品品/日用雑貨品を対象として収集した全国小売店POSデータに基づく市場推計値

※ SDI：株式会社インテージが医薬品を対象として収集した全国小売店POSデータに基づく市場推計値



## 「スペシャリティ&ジェネリック・ファルマ」としてグローバルに展開する 医薬品事業



Copyright 2013IMSヘルス  
出典：IMS医薬品市場統計 JPM2013年3月MATをもとに作成 無断転載禁止  
市場の範囲はMeiji Seikaファルマの定義による

出典：クレコンリサーチ&コンサルティング調べ、2012年度

医薬品事業では、医療用医薬品、農業・動物薬の各事業を通じて、世界の人びとの生活充実に貢献しています。  
医療用医薬品では、感染症領域、中枢神経系領域、ジェネリック医薬品を軸に展開するとともに、  
農業・動物薬では、いもち病・虫防除分野、畜水産分野での国内リーディングカンパニーの地位を堅持しています。



出典：農業工業会調べ、2012農業年度  
(2011年10月～2012年9月)

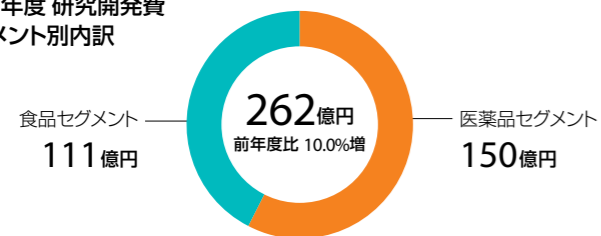
出典：富士経済調べ、2012年度



# 豊かな素材と 優れた研究開発力

各事業分野において、長年蓄積してきた「食と健康」に関する、あらゆる技術・ノウハウをさらに追求し、「おいしさ・楽しさ・健康・安心」で一步先行く価値の提供を目指します。

2012年度 研究開発費  
セグメント別内訳



## 約4,000種類にもおよぶ 乳酸菌ライブラリー

長年の知見が蓄積された研究所には、世界中から集めた約4,000種類にもおよぶ乳酸菌ライブラリーがあります。



## 牛乳の価値向上

主力商品である「牛乳」の原料乳に関して、2009年度より全国でお取引いただいている酪農家の皆さまと「牛乳の価値向上に向けた取り組み」を展開しています。



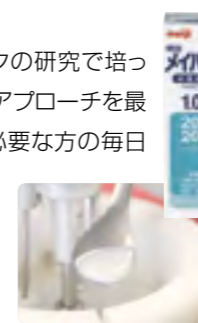
## “トレーサブルカカオ豆”を 通じた農家支援

チョコレートの原料である高品質のカカオ豆を安定的に手に入れるために、ガーナの生産地域の協力を得ながら地域指定購入しています。



## 独自の健康栄養技術

長年にわたる牛乳やヨーグルト、粉ミルクの研究で培った、独自の栄養設計技術と臨床栄養的アプローチを最大限に生かし、特別な栄養サポートが必要な方の毎日の生活に栄養製品を通じて健やかさと安心感をお届けし続けています。



## バイオサイエンスを応用した 医薬品の研究開発

微生物が産生する有用物質の研究開発で培われた知見・技術を発展させ、最先端の技術を応用したバイオ医薬品の研究開発に取り組んでいます。



## 信頼性・競争力を高める 薬品生産技術

原薬から製剤まで一貫した高品質・安定供給を可能にする、確かな技術力を保有しています。また、グローバルな生産体制による信頼性・競争力の向上に取り組んでいます。



## 安全・安心を守る品質

明治グループ理念体系に基づき、品質への取り組みを日々強化しています。

### 食品セグメント

#### 品質マネジメントシステム「Meiji Quality Comm」

“Meiji Quality Comm”では「品質」というものを、製品の「安全」と「価値」であると考えています。製品の「安全」と「価値」を守っていること、そのために「株式会社 明治」が実践していることをステークホルダーに伝えることによってお客さまの信頼と満足を獲得し、その先にある明治ブランドの価値向上を目指します。

### 医薬品セグメント

医薬品事業では顧客重視の一貫したポリシーと行動指針のもと、「ユーザーの信頼を得て社会に貢献すること」を第一に考え、医療関係者や患者さまが安心して使用できる医薬品の提供に努めています。また、農薬・動物薬事業においても生産者や医療関係者が安心して使用できる高品質の製品をお届けしています。



## 成長を支える人びとのパワー

成長を支える人材は、明治グループ最大の強みです。

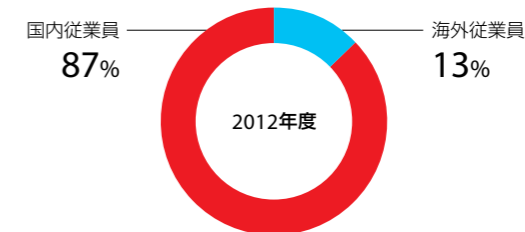
多様な人格や個性を持つさまざまな人材が、それぞれの現場で創造的で活力ある活動を行っています。

2012年度 連結従業員数

25,738人

※ 平均臨時雇用者含む

従業員構成比



## → ステークホルダーの皆さまへ



当社グループは、中期経営計画「TAKE OFF 14」のもと、  
強いブランドで構成されたポートフォリオを基盤とし、  
知見・技術を結集して、各事業の強化・育成に取り組んでいます。  
グローバルな「食と健康」の企業グループを目指して、  
着実に歩みを進めます。

### 中期経営計画「TAKE OFF 14」初年度を振り返って

2012年4月より、中期経営計画「TAKE OFF 14」をスタートさせました。この計画に基づき、各事業が保有する強いブランドや製品を継続的かつ安定的にお届けし、強いものをより強く育てるとともに、新規事業や海外事業などの育成や全社的な収益性向上に取り組んでいます。加えて、戦略投資を実施し、将来の成長に向けた体制づくりに努めています。

2012年度（2013年3月期）の業績は、各事業とも積極的に取り組みを進めた結果、計画、前年実績ともに上回り、「TAKE OFF 14」初年度として着実に進捗いたしました。食品セグメントでは、ヨーグルトを中心に乳製品事業が好調に推移して全体をけん引しました。また、収益改善に向けた事業強化の本格的な取り組みも開始し、下期から徐々に成果も表れています。医薬品セグメントでは、国内医療用医薬品事業が薬価改定の影響を補って成長しました。また、将来に向けて研究開発費を増額し、開発のスピードアップに取り組んでいます。

当社グループとして着実な一歩を踏み出した一方、為替や原材料、消費増税の動向など、経営環境は大きく変化しました。「TAKE OFF 14」策定時の前提条件にも変化が及んでおり、これらに柔軟に対応していくことが新たな課題となっています。

### 明治グループの目指す姿

私たちは、「食と健康」の領域において、食のおいしさ・楽しさや、心身両面での健康価値の提供を通じて、あらゆる世代のお客さまの生活充実に貢献することを目指しています。

約100年もの間、多くのお客さまから愛され、支持されている「meiji」ブランドは私たちの最大の経営資源であり、それを支える研究開発力や知見・技術、営業・マーケティング力、そして人びとのパワーは大きな強みです。これらの強みを結集し、あらゆる変化に対応して一つ一つの課題を着実に乗り越えることで、また「食と健康」のプロフェッショナルとして一歩先行く価値を創り、ステークホルダーの皆さまのご期待に応え続けることで、持続的な成長を実現できると考えています。

私たちは、皆さまにとって、もっと身近な存在となるため、グループ一丸となってこれからも挑戦し続けてまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

代表取締役会長

佐藤尚忠 (写真左)

代表取締役社長

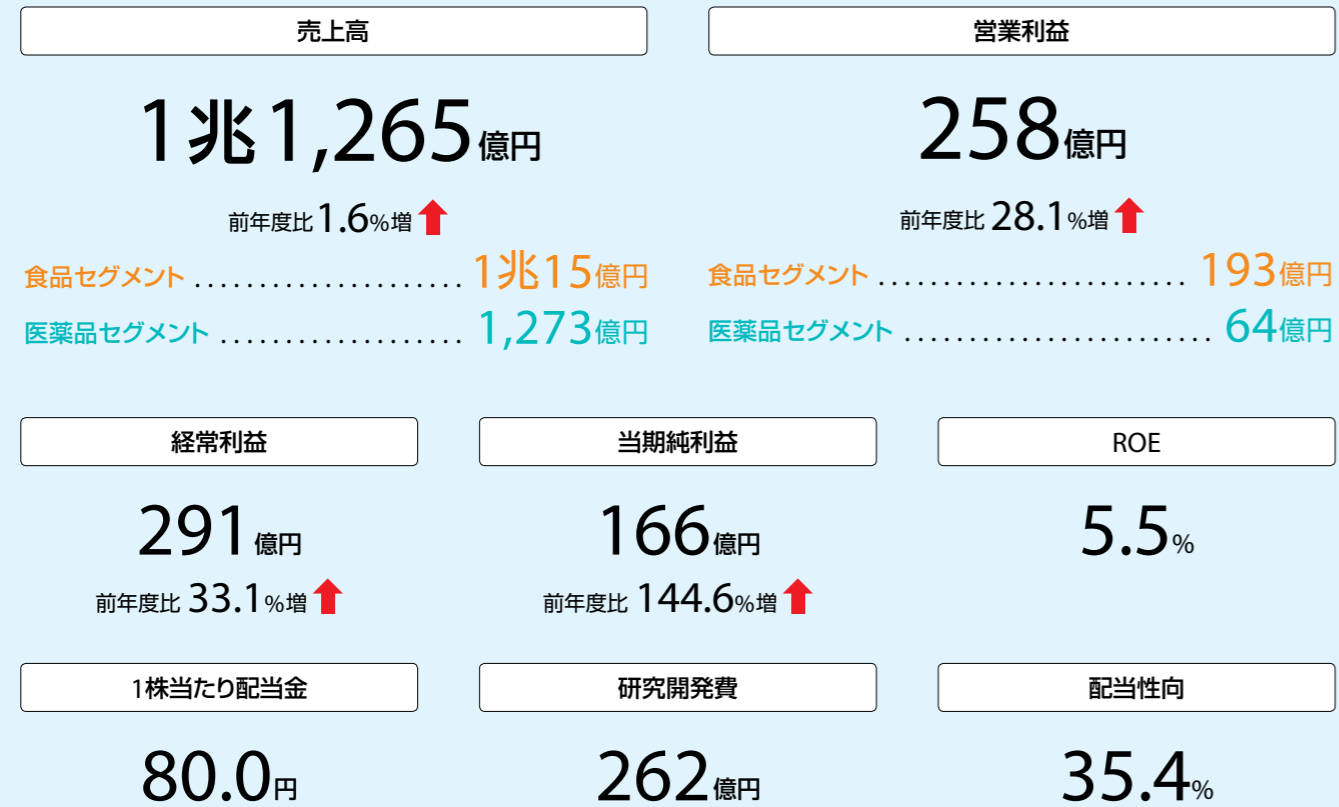
浅野茂太郎 (写真右)

## → 明治グループの概要

明治ホールディングスは、乳製品、菓子、健康栄養などの事業を担う「株式会社 明治」と医療用医薬品、農薬・動物薬などの事業を担う「Meiji Seika ファルマ株式会社」の2つの事業会社で構成されています。

こうした体制のもと、乳幼児から高齢者までのあらゆる世代のお客さまに幅広い商品ラインアップを提供しています。

### 2012年度(2013年3月期)の業績



### 明治ホールディングス株式会社

#### 株式会社 明治

##### 乳製品事業

- ・ヨーグルト、牛乳類、飲料、チーズ、バター、冷凍食品、業務用食品等

##### 菓子事業

- ・チョコレート、ガム、キャンデー、アイスクリーム等

##### 健康栄養事業

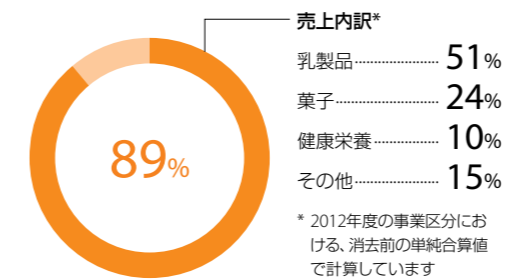
- ・スポーツ栄養、健康機能食品、OTC、粉ミルク、流動食、高齢者食等

##### その他

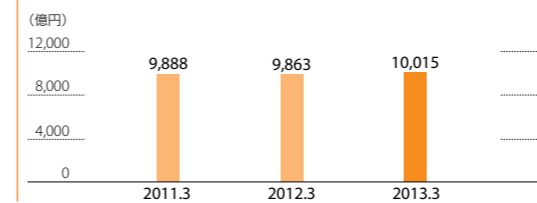
- ・中国、アジア、米国を中心とする事業
- ・物流、飼料等

(注) 2013年4月、組織変更に伴い、上記のように一部区分を見直しました。

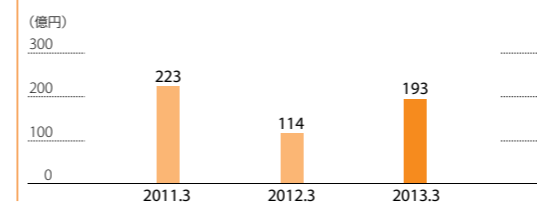
#### 売上構成比 2012年度



#### 売上高



#### 営業利益



#### Meiji Seika ファルマ株式会社

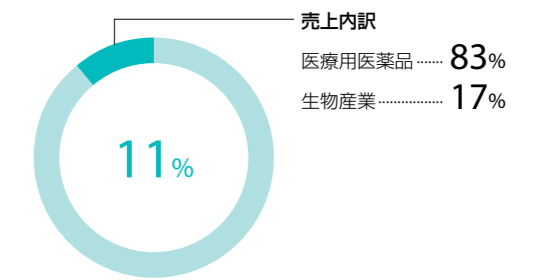
##### 医療用医薬品事業

- ・感染症領域
- ・中枢神経系領域
- ・ジェネリック医薬品等

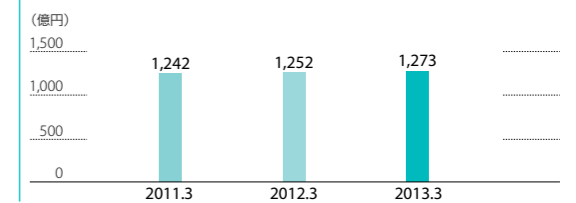
##### 生物産業事業

- ・農薬
- ・動物薬

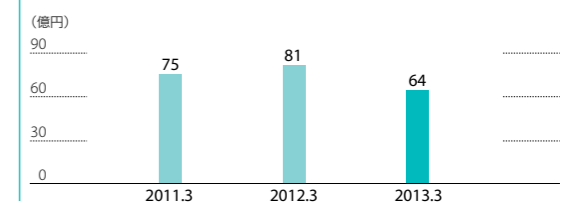
#### 売上構成比 2012年度



#### 売上高



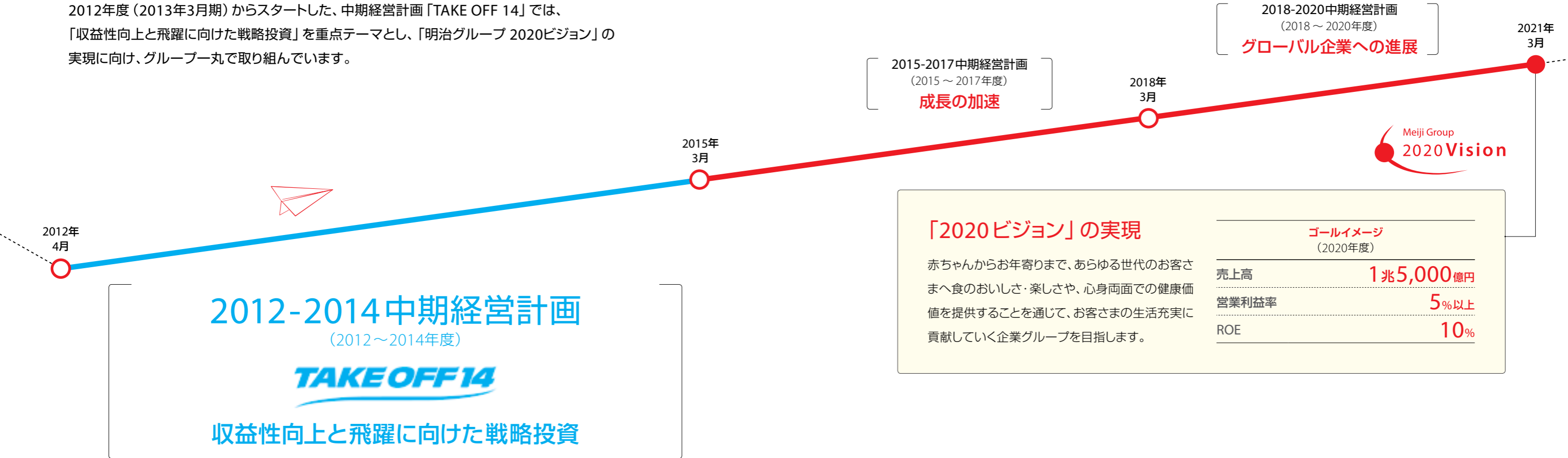
#### 営業利益





## 成長への軌跡

2012年度（2013年3月期）からスタートした、中期経営計画「TAKE OFF 14」では、「収益性向上と飛躍に向けた戦略投資」を重点テーマとし、「明治グループ 2020ビジョン」の実現に向け、グループ一丸で取り組んでいます。



### 「2020ビジョン」の実現

赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる世代のお客さまへ食のおいしさ・楽しさや、心身両面での健康価値を提供することを通じて、お客さまの生活充実に貢献していく企業グループを目指します。

#### ゴールイメージ (2020年度)

売上高	1兆5,000億円
営業利益率	5%以上
ROE	10%

#### 「TAKE OFF 14」の基本方針

- 既存事業の強化・拡大（成長・優位事業）
- 成長事業の育成（新規・海外事業）
- 収益性の向上

#### 経営目標

	2012年度実績	2013年度計画	→	「TAKE OFF 14」目標 (2014年度)
売上高	1兆1,265億円	1兆1,400億円	→	1兆1,900億円
営業利益	258億円	290億円	→	400億円
ROE	5.5%	5.5%	→	7%

#### セグメント別の成長イメージ

		2012年度実績	2013年度計画	→	「TAKE OFF 14」目標 (2014年度)
食品セグメント	売上高	1兆15億円	1兆72億円	→	1兆500億円
	営業利益	193億円	215億円	→	300億円
医薬品セグメント	売上高	1,273億円	1,350億円	→	1,400億円
	営業利益	64億円	76億円	→	100億円

中期経営計画「TAKE OFF 14」の進捗については以下のページをご覧ください

## → 社長インタビュー



経営環境の変化に柔軟に対応し、強固な事業基盤を確立すべく、  
改革・革新を進めます。  
ステークホルダーとの信頼関係を大切にし、  
本業を通じた社会貢献に努め、持続的な成長を実現します。

代表取締役社長  
浅野 茂太郎

**Q** 「TAKE OFF 14」は「明治グループ 2020ビジョン」の実現に向けた最初の3カ年中期経営計画です。経営統合、事業再編など成長に向けた体制を整え、いよいよスタートした「TAKE OFF 14」の初年度を総括すると、どのような1年でしたか。

**2012年度（2013年3月期）は「TAKE OFF 14」初年度として着実な一歩を踏み出しました。引き続き、基本方針に沿って取り組みを進めつつ、新たな課題にも柔軟に対応し、目標達成に向けて邁進します。**

2009年4月の経営統合から5年目を迎えました。その間、東日本大震災による被害やその後の影響にさらされる中、2011年4月に事業再編を実行し、新しい明治グループとして飛躍するための布石を打ってまいりました。特に、震災の

経験は、お客さまに商品を確実にお届けするという使命を強く認識し、また、事業強化を図ってさらにお客さまの生活充実に貢献していこうというモチベーションにつながるなど、新生・明治グループの存在意義を改めて考える重要な出来事でありました。まだまだ成長の途上段階ではありますが、明治グループで働く人々の意志やパワーを結集し、2020年度までの3つの3カ年中期経営計画を着実に進めることで、「2020ビジョン」の実現を目指していきます。

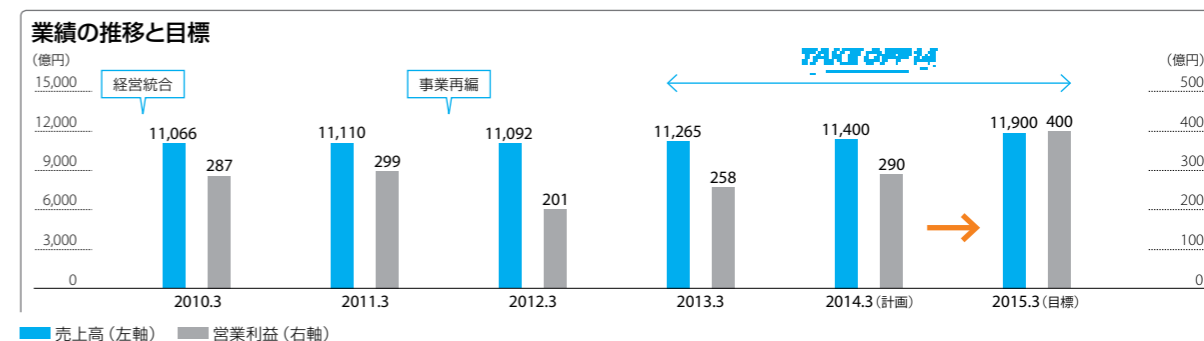
「TAKE OFF 14」の初年度となる2012年度は、食品セグメントでは、震災の影響を受けた前年度の業績、中でも利益を早期に回復すること、また再編した事業の強化を確実に進めることがテーマでした。結果として、売上高は1兆15億円（前年度比1.5%増）、営業利益は193億円（前年度比68.7%増）となりました。特に利益は、「明治ヨーグルトR-1」などのプロバイオティクスの伸長がプロダクトミックスの改善につながり、計画を上回って着地しました。食品セグメント全体では、順調なスタートであったと評価しています。

医薬品セグメントでは、2012年4月の薬価改定の影響をいかに補い、将来に向けた研究開発を進めるかが重要なテーマでした。結果として、売上高は1,273億円（前年度比1.7%増）、

営業利益64億円（21.1%減）となりました。薬価改定の影響を補い売り上げを伸ばしましたが、研究開発費を積み増したことで減益となりました。しかし、研究開発費控除前の営業利益は伸長していることから、2012年度の医薬品セグメントは計画どおりに進捗したと考えています。

グループ全体では、震災前の利益水準には及ばなかったものの、業績の回復も事業強化の取り組みも、着実な一歩を踏み出せたと捉えています。

しかし、この1年間に、為替や原材料価格、消費増税の動向など「TAKE OFF 14」策定時に想定していなかった前提条件の変化もありました。これらに柔軟に対応していくことが、2013年度以降の課題です。



**Q** 食品セグメントの各事業の取り組みや、2013年4月に実施した構造改革のねらいについて、詳しく教えてください。

**「強いものをより強く」し、また全事業を通じて収益改善の取り組みを進め、経営環境の変化にも耐える強固な事業基盤の確立を目指します。**

2012年度業績のけん引役は、ヨーグルトを中心とした乳製品事業でした。ヨーグルトの中でも、プロバイオティクスは市場をリードして急拡大し、「TAKE OFF 14」で掲げた

2011年度比30%増の目標を初年度で達成しました。明治グループは乳酸菌約4,000種類のライブラリーを保有し、基礎から応用まで最高の研究陣と長年にわたる豊富な知見を持っています。それらを結集してこのような強い製品を生み出しているのです。引き続き、強みを生かし、圧倒的な優位性を維持していきます。

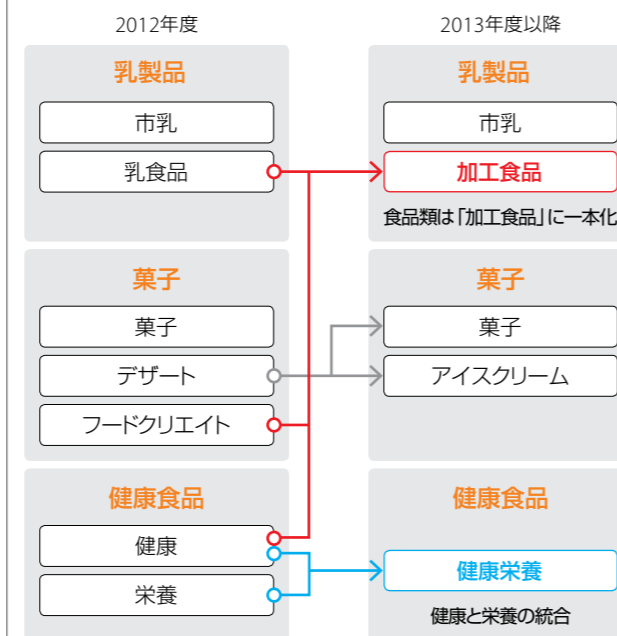
## → 社長インタビュー



菓子事業と健康栄養事業は収益性向上が課題です。菓子事業では、2012年度下期から、生産・需給・物流の効率化や品目数の適正化などによるコスト低減施策の成果が表れてきました。菓子事業には「明治ミルクチョコレート」「アーモンドチョコ」「きのこの山」「たけのこの里」などの多くのロングセラーブランドがあります。これらを核にした販売戦略にシフトし、一層の収益改善に取り組んでいきます。健康栄養事業はスポーツ栄養食品や流動食は堅調でしたが、その他製品は市況低迷や競争激化で苦戦しました。そのような中で販売生産性の向上や販売促進の効率化に努めています。菓子・健康栄養のどちらの事業も付加価値の高い製品を保有する事業ですから、その強みをもっと生かす戦略で、収益性向上に取り組んでいきます。

2013年4月、株式会社明治では収益性を向上し、事業基盤を強化するための構造改革を実施し、販売体制や事業構造を見直しました。引き続き、変化の激しい経営環境に柔軟に対応して収益を確保できる、バランスのとれた事業基盤の確立を目指します。

## 収益性向上のための構造改革 (2013年4月)



- ・事業体制の再編と販売体制の見直しにより、事業基盤を強化
- ・営業力を強化し、販売生産性を向上

## Q 医薬品セグメントの進捗状況について、詳しく教えてください。

「スペシャリティ&ジェネリック・ファルマ」の強みを生かした取り組みを着実に進めています。また、開発パイプラインの充実と研究開発のスピードアップに取り組んでいます。

2012年度は、国内の医療用医薬品事業では74億円の薬価改定の影響を受けましたが、これを補って売り上げを伸ばしました。抗菌薬では「オラベナム」、抗うつ薬では「リフレックス」が増収となりました。また、ジェネリック医薬品では、既発売品の拡大に加え、2012年度に新発売した抗うつ薬、不眠症治療薬、アレルギー性疾患治療薬がトップクラスのシェアを確保して売り上げに寄与しました。

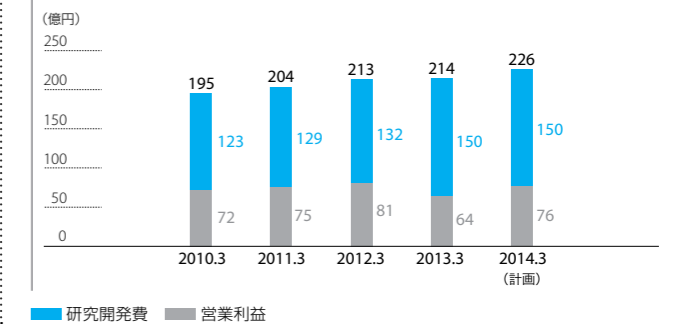
厳しい環境でも成長を実現できている背景には、「スペシャリティ&ジェネリック」の融合戦略の奏功があります。2013年度は薬価改定のない1年となります。引き続き、1人のMR（医薬情報提供者）が、患者さまの疾患に応じて新薬とジェネリック医薬品を総合的に提案する強みを生かしてシェアを拡大する考えです。

生物産業事業は、農業では主力のいもち病防除剤「オリゼメート」、動物薬では動物専用抗菌注射剤「マルボシル」やコンパニオンアニマル（ペット）用薬が伸長し、全体では増収となりました。また、国内販売の拡大に加え、海外展開の取

り組みも進めました。2013年度も引き続き、国内・海外の両市場をにらんだ成長戦略を推し進めます。

2012年度は、開発品目数の増加と各品目の開発ステージアップにより、研究開発費は前年度比18億円増となる150億円となりました。統合失調症薬に関するライセンス契約締結やパーキンソン病治療薬の国内臨床第一相試験の開始、また自社創薬となる外用爪真菌症治療剤の米国臨床第一相試験の開始など、開発パイプラインの充実も図りました。「TAKE OFF 14」では研究開発を促進しており、2013年度も研究開発費は高い水準となります。しかし、市場性の高い開発品創出のスピードアップと、優先順位づけを図ることで生産性を向上させ、費用を適切にコントロールしていきます。

## 研究開発費控除前営業利益の推移



## Q 「TAKE OFF 14」で実施している戦略投資の状況はいかがでしょうか。

緊急度や優先度の高い投資を実施したことなどにより、2012年度に計画していた投資額の一部を翌年度以降に繰り越しました。

2012年度の設備投資は、前年度比7億円減となり376億円となりました。これは、主にヨーグルトの活況に伴う増産投資を優先して実施し、その他一部の投資を翌年度以降に繰り越したことによるものです。「TAKE OFF 14」は戦略投

資期間ですから、現時点で投資総額に変更はありません。2013年度は、前年度からの繰り越しも含めて、設備投資は613億円を予定しています。

有利子負債は2,054億円（前年度比1億円増）となり前年度末とほぼ同じ水準で推移し、D/Eレシオは0.66となりました。引き続き、財務の健全性を維持しつつ、投資の原資は原則として自己資金と負債調達で対応していく考えです。

## → 社長インタビュー

**Q 「TAKE OFF 14」では、海外事業は「成長事業」と位置付けられています。海外事業の育成はどのように進めているのでしょうか。**

**グローバルな企業グループへと成長・発展すべく、明治グループならではの強みを結集し、各事業とも取り組みを強化しています。**

「TAKE OFF 14」では海外事業にも力を入れています。連結業績への貢献はこれからですが、将来のグループの成長を考えると海外事業の育成は重要なテーマです。明治グループの持つ知見や技術、品質へのこだわりを強みに、各エリアの市場特性と現地のお客さまのニーズに合わせて最適な商品をお届けし、海外のお客さまの生活充実にも貢献していく考えです。

食品セグメントでは、アジア、中国、米国を重点エリアとしています。アジアでは、タイのチルド牛乳・ヨーグルト事業が活発です。近隣国への輸出も好調で生産能力を増強し、アジア各国での事業拡大を目指しています。また、菓子は

チョコレートスナックを主力商品として展開しています。現在、シンガポールを核にしてアジア・米国など50か国以上に輸出しています。中国では、菓子、アイスクリーム、粉ミルクの各事業を展開しています。これに加え、上海を中心としたチルド牛乳・ヨーグルト事業の開始に向けて、蘇州に工場を完成させました。

医薬品セグメントは、グローバルで収益性の高い生産構造の実現と新興国を中心とした売上高の拡大を目指しています。海外には、中国、タイ、インドネシア、スペインに計5拠点を構えています。最近の話題としては、2013年3月にスペインのテデック・メイジ・ファルマでR&Dセンターを完成させました。グローバルなジェネリック市場をねらい、日本の研究所と連携して、効率的かつスピーディな開発が可能な体制を築いていきます。

**Q ROEや株主還元についての考え方をお聞かせください。**

**「質＝利益」を追い求める経営に大きく舵を切りました。「収益性の向上」の取り組みをさらに進め、利益増を基本としたROEの改善を目指しています。**

「TAKE OFF 14」のスタートを機に経営効率を測る指標としてROEを開示し、利益増による達成を基本の考え方として2014年度に7%の水準を目指しています。強いものをより強くし、また重点テーマの1つである「収益性向上」に徹底的に取り組むことで、利益成長を実現し、ROEを改善していきます。

2012年度のROEは当期純利益の大幅増により、5.5%（前年度比3.2ポイント増）となりました。当期純利益は、利益増

に加え、海外子会社の再編に伴う繰り延べ税金資産を計上したため税効果会計適用後の税金費用が減少したことで166億円（前年度比144.6%増）となりました。2013年度はROE5.5%を目指しています。

明治グループでは、安定的・継続的な利益還元の実施を基本方針としており、2012年度は中間配当40円、年間配当80円と前年水準を維持した配当を実施しました。「TAKE OFF 14」において、明治グループは国内・海外を含めトータルで強力に経営を推し進めています。これらの取り組みにより企業価値を高めることで、株主・投資家の皆さまのご期待に応えたいと考えています。



**Q 「TAKE OFF 14」の初年度を終え、改めて明治グループのあるべき姿について、どのようにお考えでしょうか。**

**「社会にとって必要な会社であり続ける」——これを実現していくことがステークホルダーの皆さまの信頼や企業価値の向上につながると考えています。**

「2020ビジョン」では、グローバルな「食と健康」のリーディングカンパニーへの飛躍を目指し、2020年度売上高1兆5,000億円、営業利益率5%以上、ROE10%というゴールイメージを掲げています。これは決して簡単な目標ではないでしょう。しかし、実力を出し切れれば、実現できると考えています。2012年度は着実な一歩を踏み出しました。2013年度はさらに弾みをつけ、「TAKE OFF 14」最終年度、また次の中期経営計画へとつなげていきます。

経営統合から5年目、事業再編から3年目となり、販売、生産などすべてのバリューチェーンにおいて、徐々にシナジーが生まれてきています。しかし、明治製菓・明治乳業という各分野で存在感を持った2社が1つになったのですから、さらにシナジーを創出し「1+1」を「2以上」にできると私は考えています。現在、明治グループでは「さまざまな価値観を成果につなげる」という、難しくも大きな可能性を秘めた課題に取り組んでいます。社内のさまざまな考えを融合するだけでなく、ステークホルダーの声にも耳を傾け、常に改革・革新していきます。

企業は「社会」の中に存在しています。独りよがりではなく、「社会にとって必要な会社であり続ける」ことを軸にしなければなりません。明治グループの事業は、時代の変化に対応した新しい商品を開発したり、生活に彩りを加える楽しい商品を提供したり、安定的に商品を生産したり、と本業を通じて社会に貢献する事業ばかりです。強みや知見、技術を結集し、ステークホルダーの期待に応えながら、グループ一丸となって本業の発展に取り組むことが、社会からの信頼獲得につながり、そして業績にも結びつくと考えています。また、事業を支えているのは従業員一人一人のパワーです。会社はステークホルダーでもある従業員への責務を果たし、皆に幸せになってもらうよう努めることも大切です。

明治グループならではの「おいしさ・楽しさ・健康・安心」を、あらゆる世代の皆さまにお届けし、日々の生活充実に貢献するとともに、「食と健康」のプロフェッショナルとして、一歩先行く価値を創り続け、人びとの心豊かな暮らしに貢献することが私たちの使命です。乳製品、菓子、健康栄養、医薬品のすべての事業を通じて、会社も従業員も社会に貢献する——そのような姿を目指します。

## 財務ハイライト

### 2012年度(2013年3月期)のポイント

#### 売上高

**食品セグメント:** ヨーグルトが好調に推移した乳製品事業がセグメント全体をけん引  
菓子事業はほぼ前期並み、健康栄養事業は減収

**医薬品セグメント:** 医療用医薬品事業は抗うつ薬、ジェネリック医薬品の伸長などにより、薬価改定の影響を補って増収  
生物産業事業も主力のいもち病防除剤が順調に推移して増収

#### 営業利益

**食品セグメント:** 乳製品事業の増収およびプロダクトミックスの改善により増益

**医薬品セグメント:** 研究開発費の増額により減益

(3月期)	百万円				千米ドル*1
	2010	2011	2012	2013	2013
<b>会計年度</b>					
売上高	¥1,106,645	¥1,111,000	¥1,109,275	¥1,126,520	\$11,977,889
<b>食品セグメント</b>	—	988,854	986,319	1,001,551	10,649,135
<b>医薬品セグメント</b>	—	124,202	125,274	127,361	1,354,186
売上原価	734,665	732,931	738,500	743,835	7,908,940
販売費及び一般管理費	343,194	348,109	350,584	356,825	3,793,996
営業利益	28,786	29,959	20,189	25,859	274,952
経常利益	28,316	30,451	21,882	29,131	309,740
当期純利益	13,088	9,552	6,805	16,646	176,977
設備投資額*2	30,546	38,512	35,994	35,275	375,076
研究開発費	22,693	23,418	23,823	26,199	278,565
減価償却費*3	39,087	41,345	40,871	40,821	434,044
営業活動によるキャッシュ・フロー	47,707	57,995	30,597	50,622	538,252
<b>会計年度末</b>					
総資産	¥ 730,044	¥ 716,368	¥ 749,985	¥ 785,514	\$ 8,352,091
純資産	297,771	293,530	298,491	320,609	3,408,926

1株当たり情報	円				ドル*1
	2010	2011	2012	2013	2013
当期純利益	¥ 177.73	¥ 129.63	¥ 92.38	¥ 225.98	\$ 2.403
純資産*4	3,933.05	3,906.36	3,958.24	4,254.56	45.237
配当金	80.0	80.0	80.0	80.0	0.851
<b>レシオ (%)</b>					
自己資本当期純利益率 (ROE)	4.6	3.3	2.3	5.5	
総資産当期純利益率 (ROA)	1.8	1.3	0.9	2.2	
<b>その他</b>					
従業員数(人)	14,168	14,861	15,338	14,819	

\*1. 米ドル金額は読者の便宜のために提供するものであり、換算レートには2013年3月31日の為替レート(1米ドル=94.05円)を使用しています。

\*2. 設備投資額は、有形固定資産のみのキャッシュ・フロー計算書ベースの数値です。

\*3. 減価償却費は、有形固定資産および無形固定資産のキャッシュ・フロー計算書ベースの数値です。

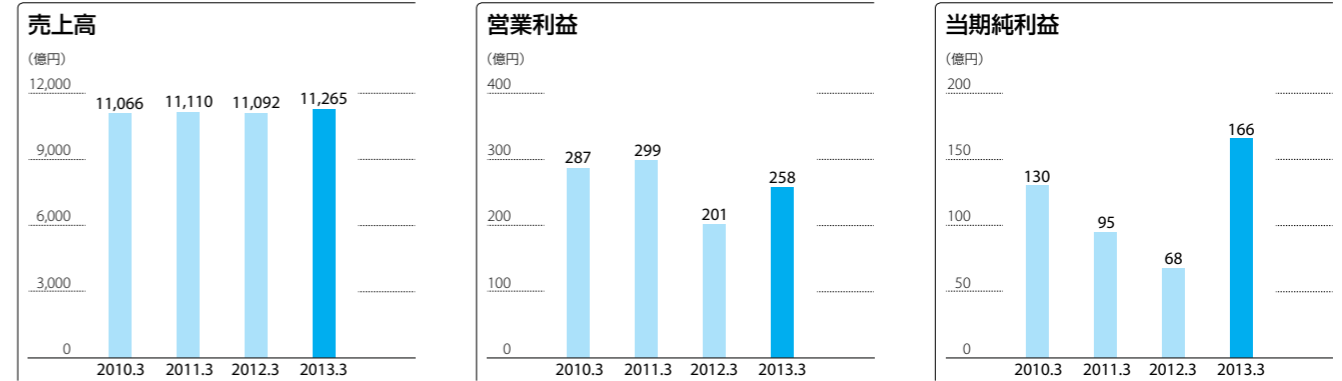
\*4. 1株当たり純資産=(純資産総額-少数株主持分) / (発行済株式数-自己株式数)

\*5. 2009年4月1日の明治ホールディングスの設立に際し、明治製菓の普通株式1株に対して明治ホールディングスの普通株式0.117株をそれぞれ割当て交付いたしました。

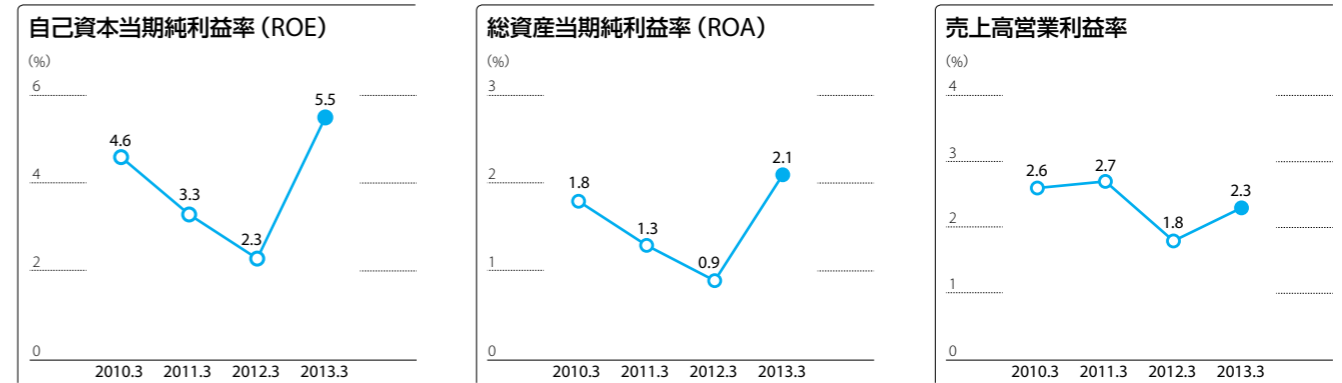
\*6. 事業再編に伴う不動産事業の管理体制の変更により、2012年3月期より不動産賃貸の収益費用の表示方法を変更しました。遡及適用後の2011年3月期営業利益29,959百万円には、遡及適用による差異1,086百万円が含まれます。

\*7. 2012年3月期よりセグメントを変更しました。2011年3月期のセグメント別売上高は、この変更を遡及適用した参考数値です。

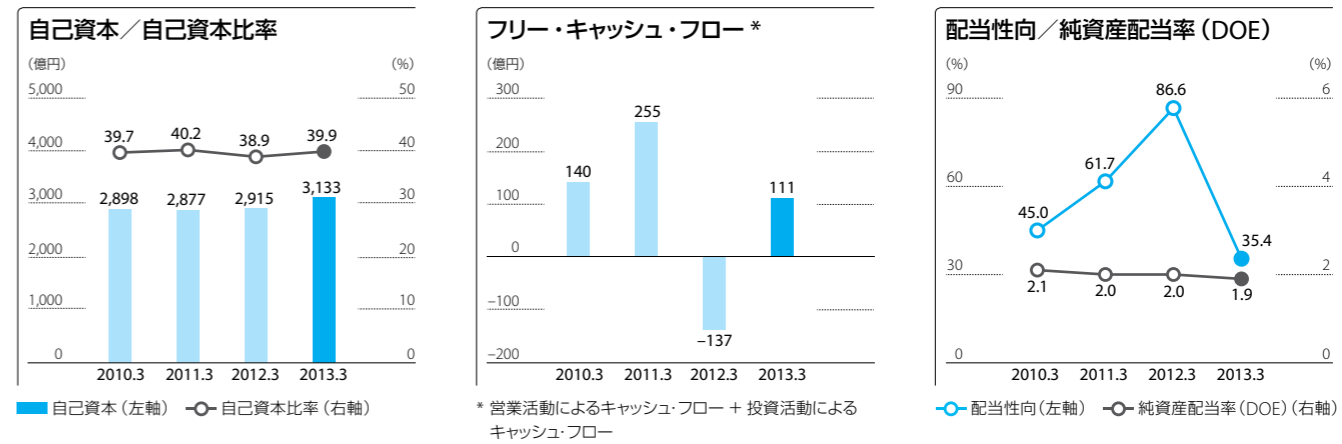
## 事業規模



## 収益性



## 安定性

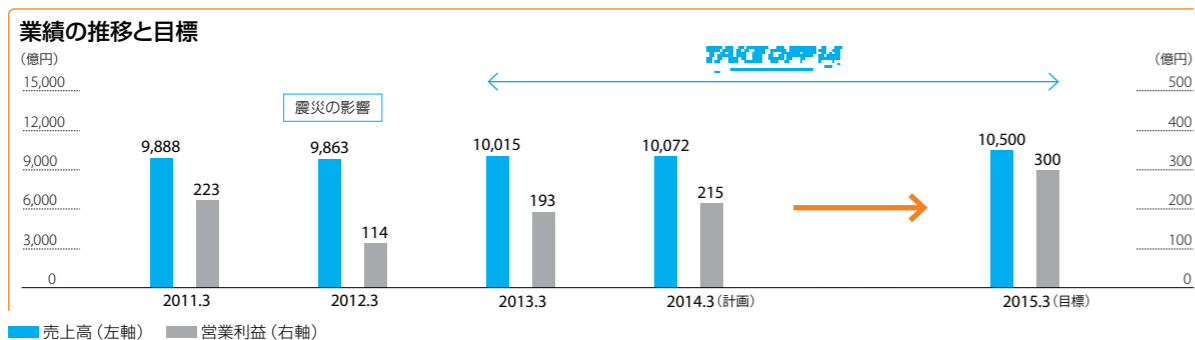


\* 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

## セグメント別「TAKE OFF 14」の進捗

# 食品セグメント

食品セグメントの強みは、あらゆる世代をカバーする豊富な商品ラインアップと、それら商品に対応した、ほぼすべての販売チャネル・温度帯で幅広い商品提供が可能な技術とインフラです。研究開発機能の融合と強化により、「食と健康」のプロフェッショナルとして、常に一步先行く価値を提供し続けてまいります。



\* 2011年度よりセグメントを変更しました。2010年度の数値は、この変更を遡及した参考数値です。

### 「TAKE OFF 14」初年度のテーマ

▶ 東日本大震災の厳しい影響を受けた2011年度業績からの早期回復 (特に利益面)

▶ 事業強化に向けた課題の明確化と対処

売上高 **10,015** 億円 前年度比 1.5% 増 ↑ 営業利益 **193** 億円 前年度比 68.7% 増 ↑

#### 2012年度 (2013年3月期) のポイント

- セグメント全体としては、乳製品事業の売上拡大に伴って拡売費や広告宣伝費が増加、また原材料コストも上昇しましたが、事業成長と収益改善の取り組みにより大幅増益を達成しました。
- 乳製品事業は増収増益となり、セグメント全体をけん引しました。特に付加価値の高いプロバイオティクスヨーグルトが拡大したことで、プロダクトミックスの改善につながりました。
- 菓子事業は、ナッツチョコレート群やアイスクリームが好調に推移し、下期以降はコスト圧縮の効果も表れましたが、通期としては減収減益となりました。
- 健康栄養事業は、流動食を含む栄養食品は好調に推移しましたが、「アミノコラーゲン」は競争激化の影響で苦戦し、全体として減収減益となりました。

### 「TAKE OFF 14」中間年度のテーマ

▶ セグメント全体の収益性向上 (主力事業の拡大と構造改革)

▶ 海外事業の着実な進展

▶ 経営環境変化 (円安、原材料高騰、消費増税など) への対処

売上高 **10,072** 億円 前年度比 0.6% 増 ↑ 営業利益 **215** 億円 前年度比 10.9% 増 ↑

### 食品セグメント

## 乳製品事業

食品セグメント内  
売上構成比  
2012年度

51%

### 2012年度の業績と取り組み

売上高 **6,170** 億円 前年度比 4.6% 増 ↑ 営業利益 **203** 億円 前年度比 104.2% 増 ↑

- ヨーグルトの売り上げが拡大し、市場をリードしました。特に、「明治ヨーグルト R-1」などのプロバイオティクスが大きく伸び、プロダクトミックスの改善にもつながりました。
- 牛乳類は前年並みの売り上げとなりましたが、「明治おいしい牛乳」はブランド10周年キャンペーンが奏功したことなどにより伸ばしました。
- 乳食品では、「明治北海道十勝カマンベールチーズ」などの主力商品群が堅調に推移しました。
- 売上拡大に伴って拡売費や広告宣伝費は増加しました。また、国内の生乳取引価格改定 (飲用向けを除く) などにより原材料調達コストも上昇しました。しかし、その影響を上回る事業成長を実現したこと、また、販売子会社の再編実施や生産効率化などのコスト削減の取り組みを進めたことにより、事業全体では増収増益を達成しました。

#### ▶ ヨーグルト市場での圧倒的優位の確立に向けて

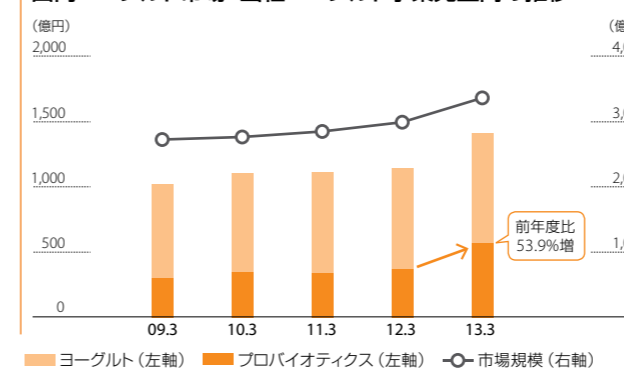
- 当社のプロバイオティクスが市場を活性化し、2012年度のヨーグルト市場は3,300億円以上の規模に成長しました。
- プロバイオティクスの2014年度 (「TAKE OFF 14」最終年度) 売上高目標を、初年度で達成しました。

- 健康志向の高まりの中、ヨーグルトの需要は堅調に拡大する見込みです。需要の高まりに合わせ、ライン増設になどによる生産能力の向上にも取り組みました。

ヨーグルトの生産体制強化に向けた設備投資に関するお知らせ  
(2013年3月14日発表) 投資額: 約**40**億円

- ・ 関東エリアの主力生産拠点である守谷工場の製造ラインを増設 (プレーンヨーグルト、小型カップヨーグルト)
- ・ 同工場の生産能力は約2倍 (容量換算)
- ・ 2013年12月より順次生産開始予定

#### 国内ヨーグルト市場・当社ヨーグルト事業売上高の推移



#### ▶ 収益性向上の取り組み

- 主力の「明治ブルガリアヨーグルト」は、新商品の投入やプロダクトミックスの見直しによる収益改善の取り組みを進めました。
- 販売子会社の再編を実施し、事業効率の改善に加え、全国規模の販売・物流ネットワークを生かした事業強化に取り組みました。

### 「TAKE OFF 14」中間年度の戦略ポイント

- 事業成長の要は「ヨーグルトの成長を持続させること」です。2013年度は、お客さまへの情報提供を強化するとともに生産強化に努め、一層の拡大を図ります。
- 引き続き、商品ラインアップの見直しや生産効率化などの収益改善施策を進めます。
- 2013年4月に実施した構造改革により「加工食品」を乳製品事業傘下で再編し、市販用と業務用の事業を連携させて営業力を強化します。

食品セグメント

## 菓子事業

食品セグメント内  
売上構成比

2012年度

24%

2012年度の業績と取り組み

売上高 **2,924**億円 前年度比 0.4%減 ↓ 営業利益 **46**億円 前年度比 10.9%減 ↓

- 発売50周年を迎えた「アーモンドチョコ」などのナッツチョコレート群やフレーバーを追加した「明治エッセルスーパーカップ」などのアイスクリームが売上げを拡大しました。また、業務用製菓・食材も、ニーズにきめ細かく応えた商材提供により主力商品群が伸長しました。
- 菓子事業全体としては市況低迷、競争激化、残暑など、厳しい競争環境のなか前年並みの売上高となりました。しかし、拡売費などの増加により減益となりました。
- 生産や物流の効率化に加えて、固定費の圧縮や品目数の適正化に着手し、下期から徐々に成果が表れています。

## 収益性の向上と商品力の強化

- 「TAKE OFF 14」で掲げた基本方針のもと、「利益拡大」を最重視して取り組みを進めています。

**生産・需給・物流の効率化**：ロングセラー商品を中心とした展開で、合理化ラインの稼働率アップを図っています。

**品目数の適正化**：商品政策を見直し、各カテゴリーで強い商品に経営資源を集中しています。

**拡売費・広告宣伝費の効果的な投入**：ロングセラー商品や成長分野の商品を核に展開し、効率的なマーケティングを実施しています。

- 乳と菓子の技術を結集し、成長するアイスクリーム市場でのシェア拡大を目指しています。「明治チョコアイスシリーズ」や「明治ザ・プレミアム グラン」を次なる柱として育成しています。



「明治ミルクチョコレート」



「きのこの山」



「アーモンドチョコ」



「たけのこの里」



「明治エッセルスーパーカップ」



「明治ザ・プレミアム グラン」



「明治ミルクチョコレートアイス」



「明治チョコレートアイスクリームバー」

## 「TAKE OFF 14」中間年度の戦略ポイント

- 収益性向上は喫緊の課題と認識し、引き続き、販売生産性の向上や品目数の適正化などあらゆるコストを見直します。
- 強いブランドを中心とした商品政策を展開するとともに、ブランドや知見、技術を生かした大型新商品・新カテゴリー商品の開発を推進します。
- 構造改革により「菓子」と「アイスクリーム」で構成される体制になりました。認知度や付加価値を高め、より一層、強みを生かして事業を展開しています。

食品セグメント

## 健康栄養事業

食品セグメント内  
売上構成比

2012年度

10%

2012年度の業績と取り組み

売上高 **1,150**億円 前年度比 2.3%減 ↓ 営業利益 **△21**億円 前年度比 10億円減 ↓

- 健康分野では、ランナーやジュニアへの普及強化が奏功したスポーツサプリメント「ザバス」は売上げを拡大しましたが、市場低迷や競争激化の影響で基礎美容食品「アミノコラーゲン」は苦戦しました。
- 栄養分野では、流動食は新規採用先の増加や新商品投入が寄与し、堅調に推移しました。また、粉ミルクは前期並みとなりました。
- 健康栄養事業全体としては、拡売費・宣伝費の圧縮に努めましたが、売上減に伴う利益減を補えず、減益となりました。

## 主カブランドのシェア拡大

- 主カブランドを中心とした展開を強化しています。

**スポーツ栄養**：スポーツサプリメント「ザバス」と機能性スポーツ飲料「ヴァーム」とも、健康志向の高まりを背景に、ランナーなどのターゲットに集中して普及活動を展開しました。



「ザバス」 「スーパーヴァーム」

**「アミノコラーゲン」**：ビフィズス菌を増やすプロフェックを加えた新商品を2013年3月に発売。低迷する市場の活性化を図りました。



「アミノコラーゲン」 「アミノコラーゲンプロフェック」

**流動食、高齢者食**：高齢化や在宅介護でのニーズ拡大を背景に、ドラッグストアに販売チャンネルを拡大。栄養設計技術を生かした商品展開を進めました。



「明治メイバランス」

**粉ミルク、幼児食**：少子化が進む中、最適な事業体制へと転換を進めています。2012年9月には粉ミルクの成分リニューアルを実施し、栄養的価値を訴求しました。



「明治ほほえみらくらくキューブ」

## 収益性向上の取り組み

- 少子高齢化、健康志向の高まり、参入企業増による競争激化などの環境変化に対応し、成長分野に経営資源を集中させて事業効率の改善を図るなど、「事業基盤の再構築」に取り組みました。

## 「TAKE OFF 14」中間年度の戦略ポイント

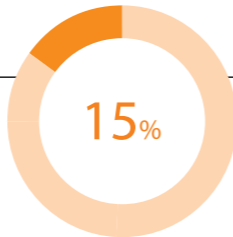
- 主カブランドの一層の強化を図るとともに、販売生産性の向上や販促コストの効果的な活用により、コスト競争力を強化し、利益の確保に努めます。
- 構造改革により「一般食品・冷凍食品」を乳製品事業に移管し、健康栄養事業は「健康」と「栄養」という、強みを生かせる分野に集中した事業展開とします。本社組織のスリム化や開発・商品企画・営業などの効率化、および生産性の向上に取り組みます。

セグメント別「TAKE OFF 14」の進捗

食品セグメント

# その他事業

食品セグメント内  
売上構成比  
2012年度



2012年度の業績と取り組み

**売上高** 1,836億円 前年度比 2.1%増 ↑ **営業利益** 7億円 前年度比 6.9%減 ↓

- 飼料・畜産などの国内事業は、全体として順調に推移しました。
- 海外事業では、新規事業の育成に努めるとともに、既存事業は収益改善策を推進しました。
- その他事業全体としては増収となりましたが、管理費などのコスト増もあり減益となりました。

海外で販売している菓子商品



「TAKE OFF 14」中間年度の戦略ポイント

- 海外事業では、引き続き新規事業を育成するとともに、既存事業では売上高と利益のバランスをとりながら拡大していきます。
- 国内事業は原材料コスト増などの影響に対応し、着実に取り組みを進めます。

T O P I C S

中国での市乳事業開始に向けて

2013年度より中国・蘇州で市乳事業を開始し、チルド牛乳とヨーグルトを製造し、上海を中心に販売する予定です。既に工場は完成し、現在、事業開始に向けて準備を進めています。信頼できる高品質の原料を確保し、現地子会社を活用して、量販店やコンビニを中心に拡大を目指します。



工場外観

明治飼糧株式会社が開発した「もろみペレット」が第9回エコプロダクツ大賞を受賞

2012年12月、明治グループの1つである明治飼糧株式会社が開発・販売する「もろみペレット」は、その資源循環性を高く評価され、第9回エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞しました。「エコプロダクツ大賞」とは、環境負荷の低減に配慮した製品・サービスに贈られる賞で明治グループでは初めての受賞となりました。「もろみペレット」は、従来は産業廃棄物として廃棄されていた、しょう油製造時に出る絞りかすを、独自製法で飼料化した製品です。今後も食品循環資源の有効活用という社会的責任を果たしていきます。



COLUMN  
1

## ヨーグルト市場での圧倒的優位性

日本のヨーグルト市場は2012年度に飛躍的に成長し、3,300億円を超える規模になりました。

その中で、明治のヨーグルト売上高は約1,400億円とトップシェアを誇っています。

1950年に日本で初めてヨーグルトの工業生産を開始して以来、明治は乳酸菌の研究を積み重ね、業界を力強くリードしています。



長年の知見が蓄積された乳酸菌研究

1950年に「明治ハネーヨーグルト」を発売、1971年には大阪万博で出会ったブルガリアのヨーグルトを再現した日本初のプレーンヨーグルトを発売しました。その後、ブルガリア政府から商品名に国名を使用する許可が下り、1973年に「明治ブルガリアヨーグルト」が誕生。今なお、日本のヨーグルトの代名詞として、お客さまから絶大な支持を得ています。

明治のヨーグルトは、60年以上もあいた継続してきた乳酸菌の研究をベースにして作られています。研究所には、世界中から集めた約4,000種類の乳酸菌ライ

ブラリーがあります。乳酸菌の組み合わせによって風味や食感、体への影響が違いため、研究を重ねて最適な組み合わせを見つけ、商品として皆さまにお届けしています。



乳酸菌ライブラリー



(上) 1973年発売の明治ブルガリアヨーグルト  
(左) 1950年に発売し、工業的生産の軌道に乗せた明治ハネーヨーグルト

最先端の研究をさらに進化させ、「おいしく、健康に」に挑戦

明治は、腸内環境を整えておなかの調子を良好にする整腸作用のあるLB81乳酸菌を発見して商品化し、特定保健用食品の表示許可を受けるなど、常に乳酸菌の可能性を高め、ヨーグルトの魅力を高める努力を重ねてきました。

近年ではピロリ菌を抑制するOLL2716乳酸菌や、免疫機能に働きかける1073 R-1乳酸菌の発見やその研究によって蓄積・検証された科学的データをベースに商品化。これらは「プロバイオティクスヨーグルト」として大変注目され、業界をリードしています。

また2011年11月には、ノーベル賞受賞者を多く生み出しているフランスのパスツール研究所と共同研究を開始。ヨーグルトの健康長寿効果の解明に「明治ブルガリアヨーグルトLB81」を使用し、乳酸菌のさらなる可能性を探っています。このような国際的な産学連携によってブランド力や企業力も高めていくなりたいです。

明治は、乳酸菌の優れた力を確かな技術力で商品化してお届けし、おいしく食べることでお客さまの生活を健やかでより豊かにできるよう、挑戦し続けています。



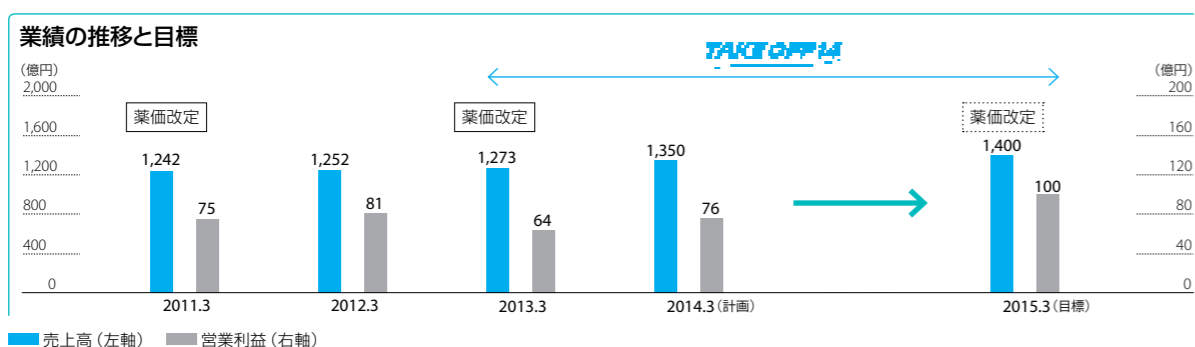
パスツール研究所内で行われた調印式

乳酸菌の可能性を  
力みずには。



# 医薬品セグメント

医薬品セグメントでは、「スペシャルティ&ジェネリック・ファルマ」としてグローバルに事業を展開しています。医療用医薬品・農薬・動物薬の研究開発による健康価値の創造を通して、また高品質で安価なジェネリック医薬品を提供することによって、世界の人びとの健康と生活充実に貢献していきます。



\* 2011年度よりセグメントを変更しました。2010年度の数値は、この変更を遡及した参考数値です。

## 「TAKE OFF 14」初年度のテーマ

### 薬価改定による影響への対処

### 将来の成長に向けた研究開発のスピードアップ

売上高 **1,273**億円 前年度比 1.7%増 ↑ 営業利益 **64**億円 前年度比 21.1%減 ↓

#### 2012年度 (2013年3月期) のポイント

- セグメント全体では、医療用医薬品事業、生物産業事業（農薬・動物薬）とも売上高は前期を上回りました。
- 医療用医薬品は、抗菌薬「オラベネム」、抗うつ薬「リフレックス」、またジェネリック医薬品が伸長し、薬価改定の影響を補って売り上げを伸ばしました。
- 農薬は、いもち病防除剤「オリゼメート」を中心に売り上げを伸ばしました。動物薬は、家畜用薬の減少の一方、コンパニオンアニマル（ペット）用薬は伸長し、前期並みの売り上げを確保しました。
- 薬価改定の影響は増収とコスト低減により補いましたが、主に研究開発費の増加により、セグメント全体の営業利益は前期を下回りました。

## 「TAKE OFF 14」2年目 (2013年度) のテーマ

### 国内医療用医薬品事業の好調を持続

### 海外展開とローコストオペレーションの推進

### ジェネリック医薬品事業の拡大

### 研究開発費の効果的な投入と開発の促進

売上高 **1,350**億円 前年度比 6.1%増 ↑ 営業利益 **76**億円 前年度比 18.1%増 ↑

## 医薬品セグメント

# 医療用医薬品事業

医薬品セグメント内  
売上構成比  
2012年度

83%

## 2012年度の業績と取り組み

売上高 **1,056**億円 前年度比 1.5%増 ↑

- 国内では、抗菌薬「オラベネム」や、積極的な普及活動を実施した抗うつ薬「リフレックス」、ジェネリック医薬品が順調に売り上げを拡大しました。ジェネリック医薬品では、既存品に加えて、2012年6月・12月の発売品も売り上げに寄与しました。
- 海外は、アジアは伸長しましたが、ヨーロッパでは主力の抗菌薬「メイアクト」が薬価改定の影響を受けて販売減となりました。
- 薬価改定の影響を国内医療用医薬品の増収と、グローバル生産体制によるコスト低減で補いました。しかし、開発品目数の増加と研究開発の推進に伴い、費用が増加したことで、利益は減益となりました。

### 「スペシャルティ&ジェネリック」の融合戦略で 売上・利益を最大化

- 得意な感染症・中枢神経系を軸に、新薬とジェネリック薬の豊富な薬剤ラインアップから、同一のMR（医薬情報提供者）が情報提供。患者さまの基礎疾患をベースに、関連疾患を含めた薬物療法を提案しています。
- MR数の増強やIT・メディアを活用した情報提供など、営業力の強化に取り組んでいます。
- 得意領域や重点診療科に向けて新薬とジェネリック薬を投入し、営業力を強化しながら効率的に普及活動を展開する戦略が奏功し、2012年度は薬価改定の影響を吸収して売り上げを伸ばしました。

### 開発パイプラインの充実と研究開発のスピードアップ

- 得意領域や市場性の高い領域を中心に、開発パイプラインの充実を図っています。
  - ・ 統合失調症治療薬「ME2136（アセナピン）」に関するライセンス契約締結（2013年4月16日発表）
  - ・ 外用爪真菌症治療剤「ME1111」の米国臨床第一相試験開始（2013年4月18日発表）

- 2012年9月には、慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療薬「オーキス 9μgタービューヘイラー 28吸入」、11月にはドラブ症候群治療薬「ディアコミット」の販売を開始しました。

- 新薬上市に向けて、最速・最短での研究開発に取り組んでおり、各品目の開発フェーズも進展しています。

### 海外展開

- 海外事業は、新興国など現地の成長市場での販売拡大と、グローバル生産体制による高品質・安定供給・ローコストオペレーションという、「販売」と「生産」の両面で展開しています。
- 「TAKE OFF 14」では、グローバルなジェネリック市場へ供給可能な新製品の開発体制確立に取り組んでいます。2013年3月には、スペインのテデック・メイジ・ファルマに最先端の設備を備えた製剤研究施設（R&Dセンター）が竣工しました。日本のCMC研究所と連携し、製剤技術を結集して特色あるジェネリック医薬品を開発し、日本や欧州、その他世界各国に供給していきます。

## 「TAKE OFF 14」中間年度の戦略ポイント

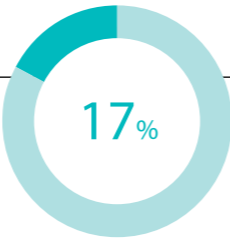
- 国内医療用医薬品は、適切な普及活動の推進による感染症・中枢神経系領域でのシェア拡大、またジェネリック医薬品の一層の拡大に努めます。また、抗がん剤やバイオ医薬品などの新領域への取り組みも強化します。
- 2014年度以降に予定される薬価改定に備え、あらゆるコストを見直し、グローバル生産体制を生かした収益性の向上に継続的に取り組みます。
- 「TAKE OFF 14」の3年間は研究開発を促進しており、研究開発費は増加傾向が続きます。しかし、優先順位付けを図ることで生産性を向上させるなど、費用を適切にコントロールします。

セグメント別「TAKE OFF 14」の進捗

医薬品セグメント

# 生物産業事業 (農薬・動物薬)

医薬品セグメント内  
売上構成比  
2012年度



2012年度の業績と取り組み

売上高 **217** 億円 前年度比 2.4%増 ↑

- 農薬では、茎葉処理除草剤「ザクサ」は減少したものの、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が伸長し、全体では増収となりました。
- 動物薬では、動物専用抗菌注射剤「マルボシル」は伸長しましたが、家畜用薬全体では前期を下回りました。一方、コンパニオンアニマル用薬は大きく伸長し、全体では前期並みの売り上げを確保しました。

▶ 農薬：国内販売の拡大と海外展開の推進

- いもち病防除剤「オリゼメート」は、幅広い製剤群を生かした普及活動の推進により、国内販売の拡大に取り組みました。また、韓国・台湾市場などの海外展開に向けた取り組みを開始しました。
- 2011年発売の茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」を主力製品として早期に定着させるべく、マーケティング強化に取り組みました。

▶ 動物薬：家畜用薬の規模拡大とコンパニオンアニマル用薬の積極展開

- 家畜用薬では、牛市場での拡大をねらい、グループ会社である明治飼糧との連携を進めて酪農家との関係強化に取り組みました。
- 国内における市場拡大を見込み、コンパニオンアニマル用薬の専任組織を設けるなど、営業力を強化しています。また、ラインアップ充実のために、開発にも注力しました。

「TAKE OFF 14」中間年度の戦略ポイント

- 引き続き、農薬では国内販売の拡大と海外展開の推進、動物薬では家畜用薬の規模拡大とコンパニオンアニマル用薬の積極展開に取り組みます。

T O P I C S

▶ 医薬品セグメントの開発パイプライン



COLUMN  
2

## 「スペシャリティ & ジェネリック」の融合戦略

日本の医療用医薬品生産額は6兆1,000億円規模に達し、世界ではアメリカに次ぐ第2位の市場となっています。また、高齢化や医療の高度化に伴い、より有用な薬剤へのニーズが増加しています。Meiji Seika ファルマは、「感染症領域」「中枢神経系領域」「ジェネリック医薬品」を中心に、より強固なプレゼンスを確立していきます。



抗菌薬市場で3位以内、抗うつ薬市場で2位以内を目指す

「メリアクト」「オラベナム」などの全身性抗菌剤は市場シェア11.4%と、業界第5位に位置しています。得意領域である「感染症」は、1946年のペニシリン製造からスタートした歴史のある領域で、「抗生物質の明治」との認知も高く、医薬品事業の基盤となっています。1994年に発売された自社開発抗菌薬「メリアクト」は、発売から20年近く経過した現在も、適応拡大や海外販売の拡大などにより、Meiji

Seika ファルマの主力製品として確固たる地位を築いています。「リフレックス」「テプロメール」などの抗うつ薬は市場シェア16.0%と、業界第3位に位置しています。1989年に抗不安薬「メイラックス錠」を発売して以来、中枢神経系(CNS)領域での製品ラインアップを拡大し、増大する精神疾患の治療に大きく貢献しています。1999年には抗うつ薬「デプロメール」を、2009年には日本初の作

用機序(NaSSA)を持つ抗うつ薬「リフレックス」を発売。現在、さらなるラインアップの充実を図るとともに、CNS領域専任のMR数を増員し普及活動に努めています。



ジェネリック医薬品の拡大

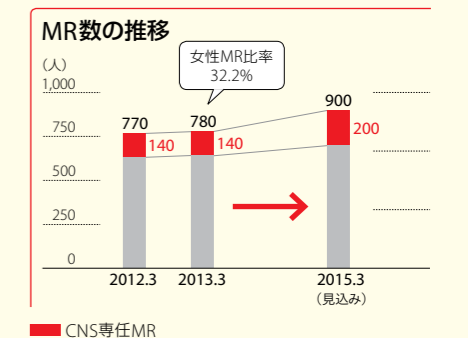
Meiji Seika ファルマは、新薬系ジェネリック医薬品取り扱いメーカーとして、業界1位を誇ります。1999年に抗ウイルス化学療法剤「ピクロックス」を発売、その後、2005年にジェネリック医薬品事業に本格進出しました。新薬の開発・販売で培った「明治ブランド」の信頼性、厳格な品質管理、安定した供給体制、豊富な情報提供を強みとし、売上高260億円規模に成長させました。得意の感染症・中枢神経系領域に加え、医療ニーズが高く市場規模が大きい製品を1品目ずつ大切に普及することを基本方針に、利便性が高く高品質な「ユースフルジェネリック」を提供することで、多様な医療ニーズに応えています。

独自の「融合戦略」により、質の高い情報提供活動を実施

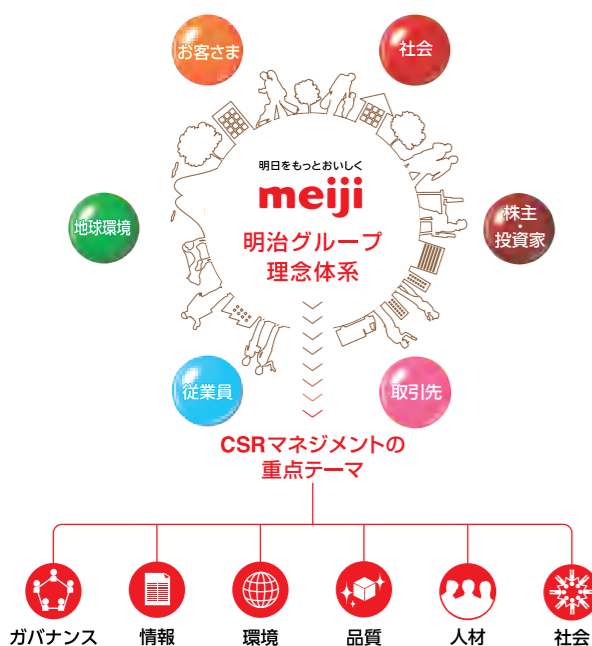
Meiji Seika ファルマでは、独自の「融合戦略」に基づき普及活動を推進しています。新薬とジェネリックを別々のMRが担当するのではなく、1人のMRが患者さまの基礎疾患に応じて、新薬とジェネリックの豊富な薬剤選択肢から情報を提供しています。このように、総合的に薬物療法を提案することで患者さまの健康をサ

ポートするとともに、新薬とジェネリックの両方の強みを生かした効率的な情報提供を推進しています。

この「融合戦略」の要はMRにあります。MRの増員や人材教育の充実による営業力の強化を図り、またIT・メディアを活用したMRの情報提供支援システムの充実により、提案力の向上に取り組んでいます。



## → 明治グループのCSR



社会から、そしてお客さまから必要とされ、信頼される企業であり続けるために

### 明治グループのCSRとは

明治グループでは、本業を通じて日々グループ理念を実践し、社会に必要とされる存在であり続けることこそ、社会的責任を果たすことであり、グループCSRの基本と考えています。

私たちが果たすべき社会的使命・役割・責任や行動については、明治グループ理念体系において、コンプライアンス・品質・環境・情報・リスクマネジメントのほか、さまざまな項目についても定められています。

### CSRマネジメント推進の仕組み

明治ホールディングスの社長を委員長、傘下事業会社である明治、Meiji Seika ファルマの社長を副委員長とし、各社のCSR担当役員で構成する「グループCSR委員会」を軸として、グループ各社がさまざまな取り組みを進めています。

明治グループでは、自社のステークホルダーを「お客さま」「社会」「株主・投資家」「取引先」「地球環境」「従業員」の6つと捉え、また重点テーマを「ガバナンス」「情報」「環境」「品質」「人材」「社会」の6つに区分し、取り組む仕組みとしています。

ステークホルダーとのコミュニケーションを非常に重要な機会と捉え、各分野において取り組みを進めています。

### グループCSR委員会の開催

明治グループでは、グループCSR委員会を年3回開催しています。この委員会の目的は、グループCSRマネジメントのフレームワークに基づき、6つのステークホルダーと6つのテーマの区分で、活動のリストアップと進捗の確認を行い、グループ全体で「CSR経営」を実践しようというものです。

また、グループCSR委員会の傘下にCSR事務局を設置し、毎月開かれる事務局会議で事業会社ごとの活動報告やCSRに関するさまざまなテーマについて議論し、その浸透に努めています。



グループCSR委員会を開催

### 明治グループ CSRサイトのご紹介

当社グループでは、ホームページを活用して、ステークホルダーの皆さまに向けたトップメッセージや、CSRの取り組みをご紹介します。

## 地球環境とのかかわり

### 環境マネジメント

2011年4月、グループの事業再編を機に環境保全活動や生物多様性をより強く意識した「明治グループ環境方針」を制定して、これまで以上に環境との調和や自然との共生を意識した企業活動を実践しています。

### 環境理念

私たち明治グループは、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。そのために、地球環境と事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。

### 環境方針

明治グループは、明治グループ理念および明治グループ環境理念を実現するために、以下の環境方針に従って事業活動を展開します。

(法令遵守)

1. 国内外の環境にかかわる法令、条例、ステークホルダーとの協定、業界規範、自主基準を遵守します。  
(環境保全活動のスパイラルアップ)
2. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を図ります。  
(環境負荷低減)
3. 商品の設計から廃棄に至るライフサイクル全般及びあらゆる事業活動において、生産性の向上、省資源、省エネルギーを推進し、環境負荷低減を図ります。  
(生物多様性の保全)
4. あらゆる事業活動において、グローバルな視野を持って生態系に配慮し、生物多様性の保全に努めます。  
(環境マインドの醸成)
5. 自然を敬い、自ら進んで環境を考え行動する従業員を育成し、環境理念の実現を図ります。  
(社会との共生及びコミュニケーション)
6. 社会との対話や、環境活動への参画により、社会との共生を図ります。また、環境情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。

## 社会とのかかわり

### 基本的な考え方

明治グループは、地域社会の皆さまとのコミュニケーションを大切に、豊かな社会づくりに貢献します。自分たちの本業を生かした、「おいしさ・楽しさ・健康・安心」を届けるさまざまな活動を国内外で展開しています。

### 食育セミナーとクッキング教室

子どもたちからシニアまで幅広い層の方々に対し、食事バランスの大切さや牛乳・乳製品摂取の必要性など、食材への興味を培うさまざまな食育支援を実施しています。



バター作りをする子どもたち

「明治クッキングサロン」は親子向け、シニア向け、ママ向けに開催される牛乳・乳製品を使った料理講習会で、約40年の歴史があります。2012年度は447回開催し、参加者は約1万4千名となりました。

「明治食育セミナー」は食育担当栄養士が小・中学校などに出向き、食事バランスの大切さについての話やバター作りを体験するなど、成長期の子どものためのプログラムを実施しています。2012年度は小学校685校で開催し、約6万人の皆さまが参加しました。

### 食品工場の見学

日本全国の工場で、チョコレート・スナック菓子・牛乳・ヨーグルト・チーズの製造工程が見学できる施設を公開し、食の安全・安心に対する企業姿勢を見学者の皆さまにご理解いただいています。



フィギュア牛で乳搾り体験

2012年度は全国6カ所の工場で約12万人のお客さまが来場されました。

### 見学会実施工場

#### ○菓子工場

坂戸工場 (埼玉県)  
東海工場 (静岡県)  
大阪工場 (大阪府)

#### ○乳製品工場

明治みるく館 (茨城県守谷工場内)  
明治ヨーグルト館 (大阪府関西工場内)  
十勝チーズ館 (北海道十勝工場内)

## コーポレート・ガバナンス

### 基本方針

明治ホールディングスは、明治グループ理念体系のもと、グループの継続的な企業価値の向上を実現するため、スピーディーかつ質の高い意思決定と適時適切な情報開示により、「お客さま」「社会」「株主・投資家」「取引先」「従業員」「地球環境」という、当社に関わりのあるすべてのステークホルダーの皆さまに対し、透明性の高い経営を推進していきます。

### 運営体制

明治グループは、持株会社である当社のもとに事業会社を置く体制をとって、運営を行っています。当社は監査役会設置会社であり、取締役会による業務執行の監督、監査役による監査という二重のチェック機能を有しています。

取締役会では幅広い見識や知見を取り入れて適正な経営判断を行うとともに、監査役は業務監査を活用し、経営の透明性・客観性および適正性の高さを確保しており、当社のコーポレート・ガバナンスの実効性をあげる上で最も合理的であると考えています。加えて、独立性と多様な経歴を持つ社外取締役2名および社外監査役2名を起用することで体制を強化、充実させています。また、役員への女性の登用については、女性取締役1名を選任しています。

また、以下の取り組みにより、コーポレート・ガバナンス体制の強化を図っています。

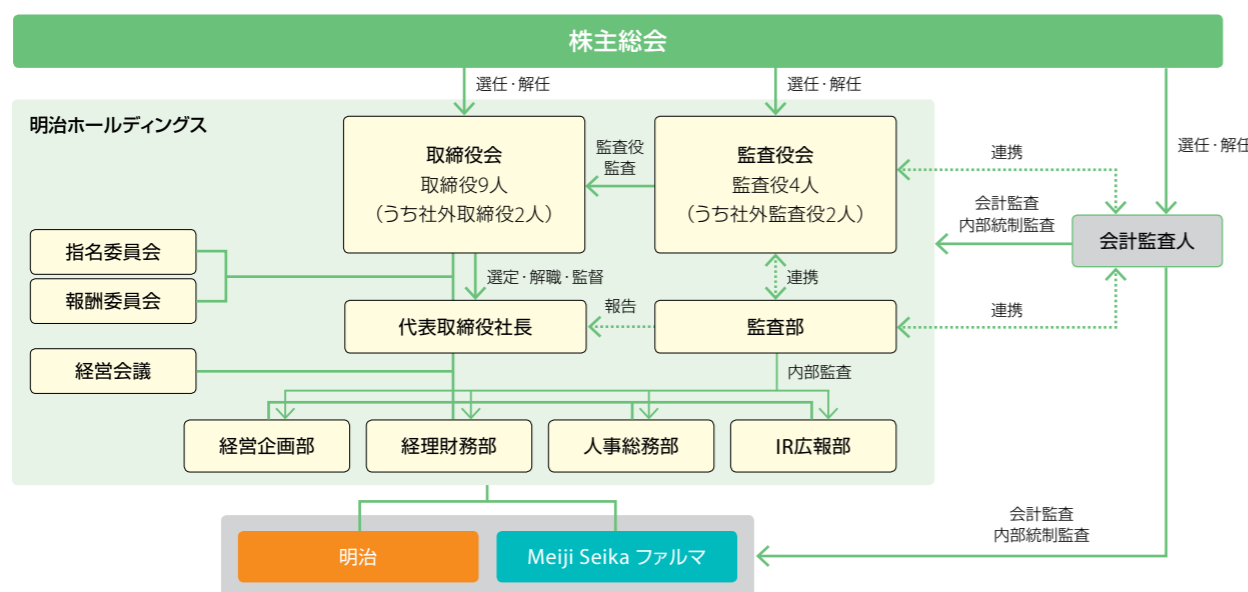
- ① 社外役員4名を起用し、いずれも独立役員として指定
- ② 取締役の任期を1年に設定
- ③ 迅速な経営判断を行うため、取締役会は9人と少人数で構成
- ④ 執行役員制度導入により、執行と監督機能を分離し、経営責任を明確化

組織体制	監査役設置会社
取締役会の議長	社長
取締役人数	9人（うち2人社外取締役）
監査役人数	4人（うち2人社外監査役）
独立役員の選任	社外取締役2人、社外監査役2人
2012年度 取締役会開催回数	14回
2012年度 監査役会開催回数	13回

社外取締役・社外監査役の取締役会・監査役会への出席状況  
(2012年度)

	取締役会	監査役会
社外取締役	約92%	—
社外監査役	約96%	100%

### ガバナンス体制図



### 社外取締役を選任している理由

#### 矢嶋 英敏

経営者としての豊富なキャリアと見識を有しており、当社経営に対し幅広い観点から助言をいただくため、社外取締役に選任しています。

#### 佐貫 葉子

弁護士としての豊富なキャリアと企業法務に係る高い専門的知見を有しており、当社経営に対し高度かつ専門的な観点から助言をいただくため、社外取締役に選任しています。

### 社外監査役を選任している理由

#### 山口 健一

弁護士としての豊富なキャリアと見識を有しているため、社外監査役に選任しています。

#### 渡邊 肇

弁護士としての豊富なキャリアと企業国際取引法に係る高い専門的知見を有しているため、社外監査役に選任しています。

### 各会の機能と役割

#### ・経営会議（原則月2回開催）

構成：取締役および執行役員

役割：社長の諮問機関

機能：業務執行に関する全般的な重要事項を審議

#### ・指名委員会

構成：社外取締役2人、社内取締役2人

役割：取締役と執行役員の候補者を取締役会に推薦

#### ・報酬委員会

構成：社外取締役2人、社内取締役2人

役割：取締役と執行役員の業績評価と報酬について検討

### 監査体制

会計監査人	新日本有限責任監査法人
内部監査部門	監査部
監査役が出席する 主な重要会議	取締役会、経営会議、監査役会、 監査部門連絡会議、ほか

### 役員報酬

#### 決定方法

取締役	株主総会にて決議された総額の範囲内において、外部調査会社データにおける他社水準を参考として、会社業績、個人業績に基づき算定。算定した報酬の額は、報酬委員会に諮った上で、取締役会で決定
監査役	株主総会にて決議された総額の範囲内において、監査役の協議により決定

### 役員報酬の内容

(2012年度)

区分	支給人数(人)	支給額(百万円)
取締役(社外取締役を除く)	9	267
監査役(社外監査役を除く)	2	58
社外役員	4	55
合計(うち社外役員)	15(4)	381(55)

\*1. 上記には2012年6月28日付にて退任した取締役2人の報酬などを含んでいます。  
\*2. 取締役の報酬等の額は、当社定款の附則により、年額10億円以内と定められています。  
\*3. 監査役の報酬等の額は、当社定款の附則により、年額3億円以内と定められています。

### 内部統制システムおよびリスク管理体制

当社グループは食と薬に関する事業を営み、多くのお客さまに商品、サービスを提供しています。2009年4月に掲げた明治グループ「企業行動憲章」のもと、コンプライアンスに根ざした公正で健全なグループ企業活動ができるよう、相互連携と多面的牽制機能に基づく当社にふさわしい内部統制システムの構築に努めています。

リスク管理にあたっては、具体的にリスク管理に関連するルールを定め、適切なリスク管理システムを構築しています。また、リスク管理を組織的に行い、当社および当社グループにおける確かなリスク管理を実践するとともに、緊急事態による発生被害を最小限に止める体制を整備しています。

### コンプライアンス

当社グループは、「コンプライアンスは事業の礎」と位置付け、法令はもとより、国際的取り決め、社会規範およびグループ各社の定める諸規定などを遵守し、高い倫理観のもと、従業員一人一人が高いコンプライアンス意識を持って、公正かつ誠実に業務を遂行するよう、教育・研修の充実、社内イントラネットによる発信、ホットラインの整備など、グループを挙げてコンプライアンス意識の醸成・定着に向けた活動を推進しています。

### ディスクロージャーポリシー

○ 当社IRサイトに「情報開示の基本原則」を掲載しています。

○ 開示情報、重要な情報、決算説明会の資料は、原則日本語と英語両方で当社IRサイトに可及的速やかに掲載しています。

## → 役員一覧 (2013年6月27日現在)

### 取締役会



代表取締役会長

#### 佐藤 尚忠

1964年 4月 明治製菓(株)入社  
1995年 6月 同取締役就任  
1999年 6月 同常務取締役就任  
2001年 6月 同取締役就任  
2001年 6月 同代表取締役就任  
2001年 6月 同専務執行役員就任  
2003年 6月 同社長就任  
2009年 4月 当社代表取締役社長就任  
2011年 4月 (株)明治取締役就任  
2011年 4月 Meiji Seika ファルマ(株)取締役就任  
2012年 6月 当社代表取締役会長就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

日本チョコレート・ココア協会会長  
全国チョコレート業公正取引協議会会長



代表取締役社長

#### 浅野 茂太郎

1966年 4月 明治乳業(株)入社  
1994年 4月 同販売企画部長  
1995年 6月 同取締役就任  
1995年 6月 同人事部長  
1999年 6月 同専務取締役就任  
2001年 6月 同代表取締役副社長就任  
2003年 4月 同代表取締役社長就任  
2009年 4月 当社代表取締役副社長就任  
2011年 4月 当社代表取締役就任  
2011年 4月 (株)明治代表取締役社長就任  
2012年 6月 当社代表取締役社長就任(現任)  
2012年 6月 (株)明治取締役就任(現任)  
2012年 6月 Meiji Seika ファルマ(株)取締役就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

(株)明治取締役  
Meiji Seika ファルマ(株)取締役  
日本乳品貿易(株)代表取締役社長  
一般社団法人Jミルク会長



取締役 常務執行役員

#### 金子 秀定

1972年 4月 明治乳業(株)入社  
2005年 4月 同人事部長  
2005年 6月 同取締役就任  
2009年 6月 同執行役員就任  
2011年 4月 (株)明治取締役常務執行役員就任  
2012年 6月 当社取締役常務執行役員就任(現任)  
2012年 6月 当社人事総務部長(現任)



取締役

#### 川村 和夫

1976年 4月 明治乳業(株)入社  
2007年 4月 同栄養販売本部長  
2007年 6月 同取締役就任  
2009年 6月 同執行役員就任  
2010年 6月 同取締役常務執行役員就任  
2011年 4月 (株)明治取締役専務執行役員就任  
2012年 6月 同代表取締役社長就任(現任)  
2012年 6月 当社取締役就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

(株)明治代表取締役社長  
一般社団法人日本アイスクリーム協会会長  
全日本菓子協会会長



取締役(社外)

#### 矢嶋 英敏

1959年12月 日本航空機製造(株)入社  
1977年 6月 (株)島津製作所入社  
1990年 6月 同取締役就任  
1994年 6月 同常務取締役就任  
1996年 6月 同専務取締役就任  
1998年 6月 同取締役社長就任  
2003年 6月 同代表取締役会長就任  
2006年 6月 明治製菓(株)取締役就任  
2009年 4月 当社取締役就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

三菱自動車工業(株)社外取締役  
(株)槽本チエイン社外取締役



取締役(社外)

#### 佐貫 葉子

1981年 4月 弁護士登録  
2001年11月 NS総合法律事務所開設  
2003年 6月 明治乳業(株)補欠監査役  
2007年 6月 同監査役就任  
2009年 4月 当社取締役就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

弁護士  
(株)りそなホールディングス社外取締役



取締役 常務執行役員

#### 平原 高志

1974年 4月 明治乳業(株)入社  
2007年 4月 同管理部長  
2007年 6月 同取締役就任  
2009年 4月 当社執行役員就任  
2009年 4月 当社経理財務部長(現任)  
2009年 6月 明治乳業(株)執行役員就任  
2011年 4月 当社常務執行役員就任  
2011年 6月 当社取締役常務執行役員就任(現任)



取締役 常務執行役員

#### 左座 理郎

1978年 6月 明治製菓(株)入社  
2007年 6月 同経営戦略部長  
2008年 6月 同執行役員就任  
2009年 4月 当社執行役員就任  
2009年 4月 同経営企画部長(現任)  
2012年 6月 同取締役執行役員就任  
2013年 6月 同取締役常務執行役員就任(現任)



取締役

#### 松尾 正彦

1969年 4月 明治製菓(株)入社  
1999年 7月 薬品国際事業本部長  
2001年 6月 同執行役員就任  
2002年 6月 同取締役就任  
2003年 6月 同常務執行役員就任  
2007年 6月 同専務執行役員就任  
2009年 4月 当社取締役就任(現任)  
2011年 4月 Meiji Seika ファルマ(株)代表取締役社長就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

Meiji Seika ファルマ(株)代表取締役社長

### 監査役会



監査役(常勤)

#### 佐藤 秀明

1976年 4月 明治乳業(株)入社  
2009年 6月 同執行役員就任  
2011年 4月 (株)明治執行役員就任  
2013年 6月 当社監査役就任(現任)



監査役(常勤)

#### 田子 博士

1975年 4月 明治製菓(株)入社  
2009年 6月 同執行役員就任  
2011年 4月 (株)明治執行役員就任  
2013年 6月 当社監査役就任(現任)



監査役(社外)

#### 山口 健一

1982年 4月 弁護士登録  
1991年 4月 山口法律事務所開設  
2007年 6月 明治製菓(株)監査役就任  
2009年 4月 当社監査役就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

弁護士



監査役(社外)

#### 渡邊 肇

1987年 4月 弁護士登録  
1987年 4月 森綜合法律事務所入所  
1994年 9月 米国イリノイ州外国法事務弁護士登録  
1995年 5月 米国ニューヨーク州弁護士登録  
2007年 4月 未吉綜合法律事務所  
(現 潮見坂綜合法律事務所)開設  
2010年 6月 当社補欠監査役  
2013年 6月 当社監査役就任(現任)

#### ▶重要な兼職の状況

弁護士  
星光PMC(株)社外監査役

## グループ会社紹介

### 国内

#### 株式会社 明治

##### 本社

##### 研究所

菓子開発研究所／食品開発研究所／食機能科学研究所／  
技術開発研究所／品質科学研究所

##### 工場

札幌工場／旭川工場／稚内工場／西春別工場／根室工場／  
十勝工場／十勝帯広工場／本別工場／東北工場／茨城工場／  
守谷工場／群馬工場／群馬栄養工場／  
群馬医薬・栄養工場／埼玉工場／戸田工場／坂戸工場／  
神奈川工場／北陸工場／軽井沢工場／東海工場／愛知工場／  
京都工場／関西工場／関西アイスクリーム工場／大阪工場／  
岡山工場／広島工場／九州工場

##### 支社

北海道支社／東北支社／関東支社／中部支社／  
関西支社／中四国支社／九州支社

##### グループ会社

###### 菓子ユニット

道南食品株式会社／蔵王食品株式会社／明治産業株式会社／  
株式会社 Rond／明治チューインガム株式会社／  
四国明治株式会社／東海ナッツ株式会社／  
マルチフード・インターナショナル株式会社

###### 乳製品ユニット

東海明治株式会社／明治油脂株式会社／  
四国明治乳業株式会社／明治フレッシュネットワーク株式会社／  
関東製酪株式会社／千葉明治牛乳株式会社／  
バンビー食品株式会社／沖縄明治乳業株式会社／  
栃木明治牛乳株式会社

###### 健康栄養ユニット

岡山県食品株式会社

###### その他

明治飼糧株式会社／株式会社アサヒプロイラー／  
明治ケンコーハム株式会社／明治ライスデリカ株式会社／  
株式会社明治フードマテリア／株式会社フランセ／  
太洋食品株式会社／日本罐詰株式会社／  
明治ロジテック株式会社／株式会社ケー・シー・エス／  
株式会社フレッシュ・ロジスティック／  
株式会社スリーエスアンドエル／株式会社明治テクノサービス／  
株式会社ナイスティ／明治ビジネスサポート株式会社／  
株式会社ニッター／明治食品株式会社／明糖倉庫株式会社

#### Meiji Seika ファルマ株式会社

##### 本社

##### 研究所

医薬研究所／CMC 研究所／バイオサイエンス研究所／  
生物産業研究所

##### 工場

北上工場／小田原工場／岐阜工場

##### 支店

###### 薬品

薬品札幌支店／薬品仙台支店／薬品東京支店／  
薬品千葉・埼玉支店／薬品横浜支店／薬品関東支店／  
薬品名古屋支店／薬品京都支店／薬品大阪支店／  
薬品中国支店／薬品四国支店／薬品福岡支店

###### 農薬

農薬札幌支店／農薬仙台支店／農薬東京支店／  
農薬名古屋支店／農薬大阪支店／農薬熊本支店

###### 動物薬

動薬北日本支店／動薬東京支店／動薬名古屋支店／  
動薬大阪支店／動薬熊本支店

##### グループ会社

北里薬品産業株式会社／大蔵製薬株式会社／  
田村製薬株式会社／都輸送株式会社

### 海外

#### 株式会社 明治

##### 事務所

- ① バンコク事務所
- ② メルボルン事務所
- ③ 台北事務所
- ④ ハノイ事務所
- ⑤ 上海事務所

##### グループ会社

- ⑥ 明治制菓食品工業（上海）有限公司
- ⑦ 明治乳業貿易（上海）有限公司
- ⑧ 明治乳業（蘇州）有限公司
- ⑨ 広東四明燕塘乳業有限公司
- ⑩ 廣州明治制菓有限公司
- ⑪ 上海明治健康科技有限公司
- ⑫ メイジセイカ・シンガポール
- ⑬ メイジ・インドネシア
- ⑭ メイジデイリー・オーストラレイシア
- ⑮ P.T. セレス・メイジ・インドタマ
- ⑯ CP メイジ
- ⑰ タイ・メイジ・フード
- ⑱ メイジ・アメリカ
- ⑲ スタウファー・ビスケット
- ⑳ ラグーナ・クッキー
- ㉑ メコー・インク
- ㉒ ベガン・メイジ

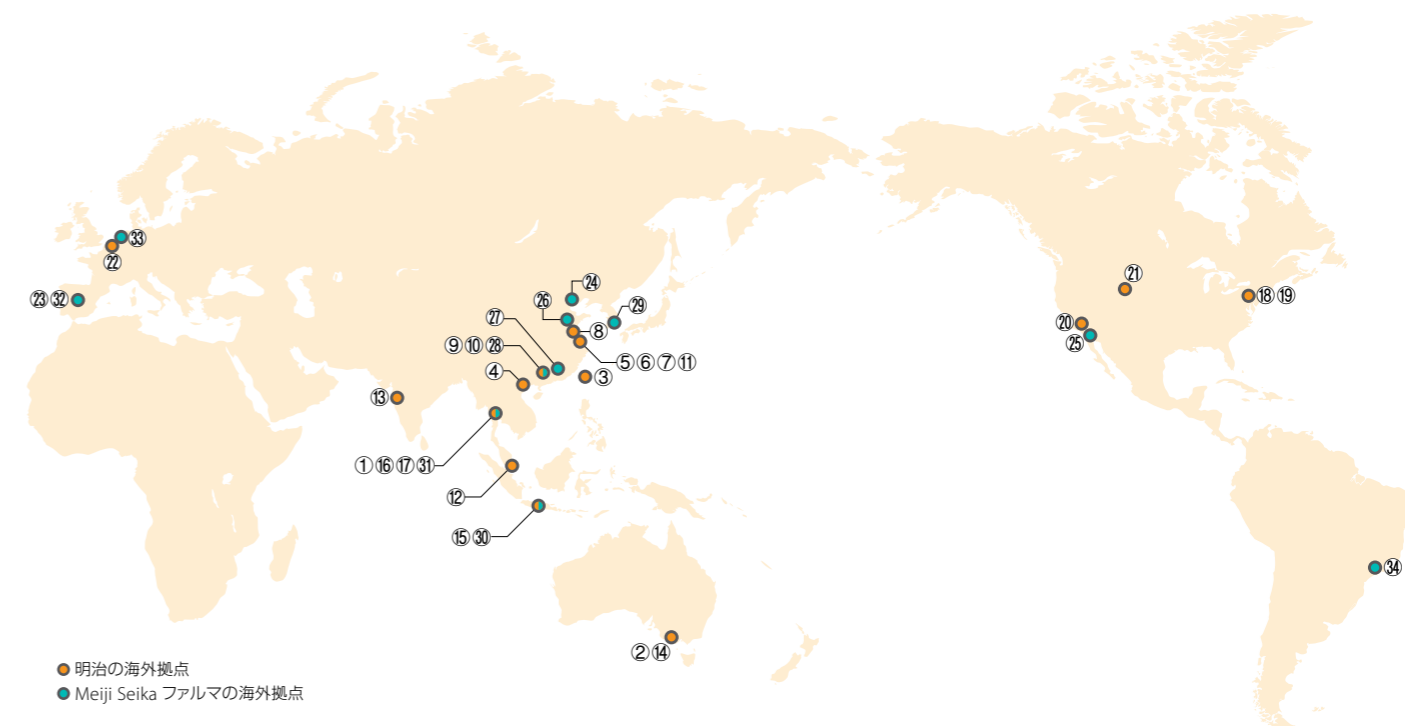
#### Meiji Seika ファルマ株式会社

##### 事務所

- ㉓ マドリード事務所
- ㉔ 北京事務所
- ㉕ 米国事務所

##### グループ会社

- ㉖ 明治医薬（山東）有限公司
- ㉗ 汕頭経済特区明治医薬有限公司
- ㉘ 広東明治医薬有限公司
- ㉙ メイジファルマコリア
- ㉚ P.T. メイジ・インドネシア・ファーマシューティカル
- ㉛ タイ・メイジ・ファーマシューティカル
- ㉜ テデック・メイジ・ファルマS.A. / マボ・ファルマS.A.
- ㉝ メイジセイカ・ヨーロッパB.V.
- ㉞ ユニキミカ



## 会社情報 / 株式情報 (2013年3月31日現在)

### 会社情報

商号	明治ホールディングス株式会社 (証券コード: 2269)	定時株主総会	6月下旬
本社所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目4番16号	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
設立	2009年4月1日	公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.meiji.com/">http://www.meiji.com/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 なお会社法第440条第4項の規定により、決算公告は行いません。
資本金	300億円	グループ従業員数	14,819人
株式数	発行済株式総数 76,341,700株		
上場金融商品取引所	東京証券取引所		
決算期日	3月31日		

### お問い合わせ先

#### 明治ホールディングス株式会社

電話: 03-3273-4001 (代表) (受付時間 9:00~17:00 / 土・日・祝日を除く)

明治ホールディングス株式会社は、インターネット上の自社ウェブサイトよりさまざまな情報を提供しています。

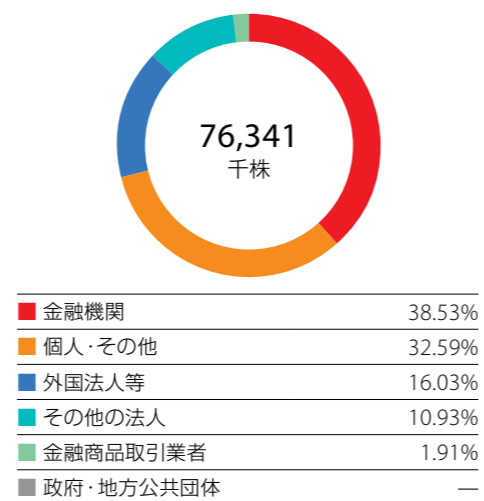
### 株式情報

#### 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の 割合 (%)
株式会社みずほ銀行	3,582	4.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,544	4.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,781	3.64
日本生命保険相互会社	2,092	2.74
明治ホールディングス従業員持株会	1,975	2.59
株式会社りそな銀行	1,523	2.00
農林中央金庫	1,446	1.89
明治ホールディングス取引先持株会	1,391	1.82
東京海上日動火災保険株式会社	1,184	1.55
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,002	1.31
上位10名の合計	20,524	26.89

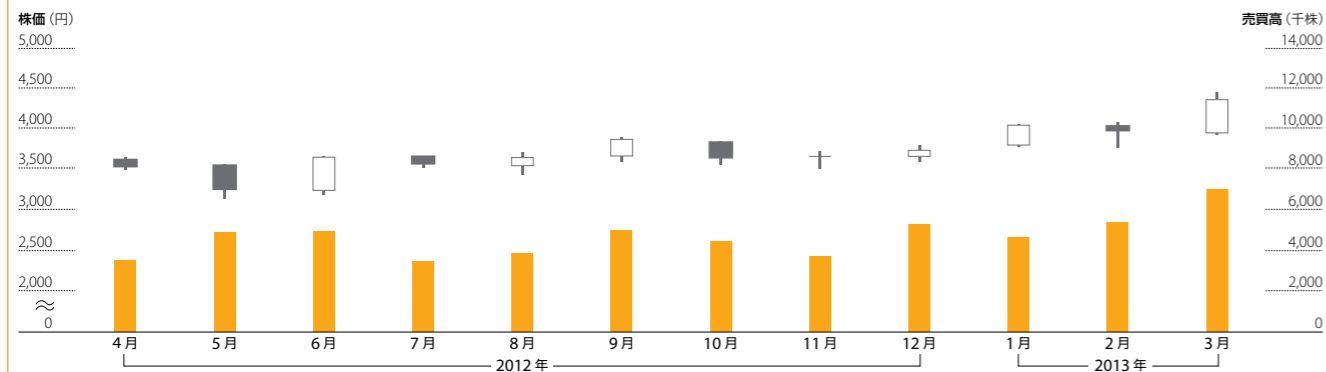
(注) 上記の他に、当社が自己株式を2,683千株 (持株比率3.51%) 所有しております。

#### 株式の所有別分布状況



(注) 自己株式は、「個人・その他」に含まれています。

#### 株価および売買高の推移



## 沿革

### > 1900s ~ 1940s

- 1906 旧・明治製糖 (明治グループの起源) 設立
- 1916 明治製菓の前身、東京菓子創立
- 1917 東京菓子、大正製菓 (親会社: 明治製糖) を合併  
大久保工場でキャラメル・ビスケットを製造 (東京菓子)  
明治乳業の前身、極東煉乳 (親会社: 明治製糖) 設立  
煉乳などの製造を開始 (極東煉乳)
- 1920 明治製糖が明治商店 (のちの明治商事) を設立
- 1924 東京菓子、商号を明治製菓株式会社と変更
- 1926 「ミルクチョコレート」発売  
ココア発売
- 1928 「明治牛乳」発売
- 1940 極東煉乳、商号を明治乳業株式会社と変更
- 1946 ペニシリンの製造開始、薬品事業を始める

### > 1950s ~ 1960s

- 1950 抗菌薬「ストレプトマイシン」発売
- 1951 「ソフトカード明治コナミルク」発売
- 1953 生クリーム「明治フレッシュクリーム」発売
- 1958 海外に通用する国産初の抗菌薬「カナマイシン」発売
- 1961 「マーブルチョコレート」発売
- 1968 日本ではじめてのスナック菓子「カール」発売  
離乳食「明治ベビーかゆ」「明治育児用果汁オレンジ」発売

### > 1970s

- 1971 「明治プレーンヨーグルト」発売
- 1972 明治商事が乳製品部門を明治乳業に移譲  
明治製菓、明治商事と合併
- 1973 「明治ブルガリアヨーグルト」発売
- 1974 「明治製菓シンガポール」設立  
「P.T. メイジ・インドネシア」設立
- 1975 「きのこの山」発売  
農業「オリゼメート」発売
- 1976 冷凍食品「ピッツア&ピッツア」発売

### > 1980s

- 1980 「ザバス」シリーズ発売
- 1983 一般用医薬品「インソジウがい薬」発売
- 1986 流動食「YH-80」発売
- 1988 「果汁グミ」発売
- 1989 タイに「CP メイジ」設立  
抗不安薬「メイラックス」発売

### > 1990s

- 1990 「スーパーナチュラルアイスクリームAYA《彩》」発売  
ソフトマーガリン「明治コーン100」発売
- 1992 「明治北海道十勝チーズ」発売
- 1994 「明治エッセル スーパーカップ超バナラ」発売  
抗菌薬「メイアクト」発売
- 1995 機能性スポーツ飲料「ヴァーム」発売  
流動食「メイバランス」発売
- 1997 「キシリッシュガム」発売
- 1999 抗うつ薬「デプロメール」発売

### > 2000s

- 2000 「明治プロビオヨーグルト LG21」発売
- 2002 「明治おいしい牛乳」を全国発売  
「アミノコラーゲン」発売
- 2007 粉ミルク「明治ほほえみらくらくキューブ」発売
- 2008 「明治フレッシュクリームあじわい」発売
- 2009 4月、共同持株会社「明治ホールディングス株式会社」を設立し、明治製菓・明治乳業が経営統合  
抗菌薬「オラベネム」発売  
抗うつ薬「リフレックス」発売

### > 2010s

- 2010 長期経営指針「明治グループ 2020ビジョン」策定  
「明治ヨーグルトR-1」発売
- 2011 4月、明治グループ内事業再編により、食品事業会社「株式会社明治」、薬品事業会社「Meiji Seika ファルマ株式会社」発足